

令和2年9月28日

京都大学教育学研究科・教育学部  
後期授業担当者 各位

教育学研究科教職教務掛

**【至急】教育学研究科・教育学部の後期授業 対面実施希望の第2次調査  
ならびにオンライン授業実施に当たってのお願い**

教育学研究科・教育学部の令和2年度後期の授業（大学院科目・学部科目）の実施形態について、9月1日時点における方針を研究科長・学部長より教育学研究科・教育学部の学生ならびに教職員にお知らせしましたが、9月18日付けで、山極壽一危機対策本部長より「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動制限レベルの変更予定について」が出されました。

[https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus/documents/200918\\_1.pdf](https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus/documents/200918_1.pdf)

「今後、学内で新たなクラスターの発生や域内で著しく感染者の増加する事態などが無ければ、10月1日から、活動制限レベルを レベル2（－） から レベル 1 に変更いたします。」という内容です。

これを受けて、教育学研究科・教育学部では、レベル1になった場合、下記のいずれかの条件を満たした授業については、対面（オンキャンパス）での実施を認める方向で、検討しています。

- 履修者数\*が教室収容人数\*\*50%未満の場合。
- 履修者の半数を教室に来させ、残りの半分はオンラインでの受講を認めるなどの工夫により、教室に来る人数を教室収容人数50%未満に抑えることが可能な場合。

\*履修者数については、例年の履修人数を踏まえて、相乗り科目等を含め、1教室内に集まると想定される人数をお考えください。

\*\*教室収容人員は、下記をご参照ください。

[https://docs.google.com/spreadsheets/d/1mTuk7jEDfTz-YRYSZQIdk4Vyu\\_6WuE8ZcSrfz4PZjyI/](https://docs.google.com/spreadsheets/d/1mTuk7jEDfTz-YRYSZQIdk4Vyu_6WuE8ZcSrfz4PZjyI/)

\*\*教室が不足しているため、特に大人数の科目については、教室が確保できない可能性が大きいことをお含みおきください。特に他部局から教室を借りる予定だった授業については、他部局の教室利用計画変更により、教室を借りられない可能性があります。その場合には、対面実施の希望を出されても認められない、あるいは他部局の判断を待たないと可否を判断できない場合があります。ご了承ください。

つきましては、活動制限レベルがレベル1に下がった場合に、対面での授業実施、または対面とオンラインを併用するハイブリッド型での授業実施に変更を希望される場合には、実施の可否を検討いたしますので、以下の注意事項等をご確認いただくとともに、10月1日（木）までに、下記URLから申請してください。

<https://forms.gle/oEWiG8K4Ux9fp3QS8>

なお、感染拡大が起こらない場合には、後日、対面実施希望に関する第3次調査を行う予定です。

※オンライン授業を実施される場合、下記2点をお願いいたします。

- オンライン授業を実施される場合、単に課題を提示して、レポート等を回収するだけといった形では、大学設置基準上の「授業」として認められません。オンデマンド型または同時双方向型で授業を提供する、学生に質問の機会を与え回答する、レポートの添削・返却をする、教員の出したテーマや学生が提出した小レポートの内容についてPandAのフォーラム（電子掲示板）を用いて討論させ教員もコメントする等、十分な指導が行われ、何らかの形での双方向性が担保される形にしてくださいませよう、お願いいたします。

\*非常勤講師の方で、PandA・Zoomの使用に際し、TAをご希望の場合は、10月1日（木）までに、教職教務掛までご連絡ください。

- 対面授業の履修に伴い、その前後で開講されている同時双方向型でのオンライン授業の履修が困難になる学生が生じる可能性があります（対面授業の増加により、構内での視聴スペースが十分に確保できないことが予想されます）。つきましては、引き続きオンラインでの授業実施を予定される先生方には、そういった学生に対し、録画をご提供いただくなどのご配慮をお願いいたします。

※既に対面授業の実施を許可されている科目については、今回の調査への回答はご不要です。

※今回、対面実施希望を出される先生方は、下記をご確認ください。

- 教育学部の教室を利用される場合、今回希望を出された科目の対面実施の可否については、10月7日（水）までに回答する予定です。対面実施が認められた場合、最短で、10月8日（木）に学生に告知をしていただければ、10月15日（木）から対面での実施が可能となります。実際に対面実施を開始される日付については、授業担当の先生にご判断いただいて構いません。その場合、対面実施を開始する1週間前までにKULASISの「授業資料」、またはPandAの「お知らせ」等にて、学生への周知をお願いします。
- 9月4日付メールにて、KULASISの「授業資料」、またはPandAの「お知らせ」等にて、シラバスの変更内容を掲載していただきますよう、ご依頼しております。今回、対面実施を希望される場合には、許可された場合に対面で授業を実施する可能性がある旨も、記載しておいていただきますよう、お願いいたします。
- 対面授業の実施が認められた場合には、別添「確認書」の内容を教員・学生で確認し、遵守していただきますよう、お願いいたします。消毒作業や機材の準備・操作の補佐などのため、希望される場合には、追加のTA・OAをつける方向で検討しています（予算の制約により、つけられない場合もあります）。追加のTA・OAを希望される場合は、その旨、「TA・OAの希望」の欄にご記入ください。対面授業実施の可否の回答の際、TA・OAの雇用の可否についても回答いたします。なお、TA・OAの雇用については、10月15日（木）までに雇用手続きの書類をご提出いただけましたら、11月1日（日）付けの採用が可能で、書類提出が10月16日（金）から10月30日（金）までになった場合は、11月16日（月）からの採用となります。  
\*なお、雇用手続きに関わる書類作成については研究科で支援することが可能です。11月1日（日）付けの採用をご希望の場合は、10月15日（木）の数日前にご相談ください（非常勤講師の方は担当教員にご相談ください）。
- 履修者の半数ずつを教室に来させ、残りの半数にオンラインで受講させるといった形で、教室での受講生を教室収容人数の半数以下に減らすといった工夫を予定されている

場合は、「感染防止の対策」欄に「半数ずつの分散登校を予定」のようにご記入ください。

- 対面授業を実施したとしても、重症化リスクが高い学生や遠方在住の学生については、オンラインでの受講を希望する場合があります。また、構内に視聴スペースを十分に確保できないため、該当の対面授業の前後にオンライン授業を受講する学生についても、オンラインでの受講を認めていただかざるを得ない場合が出てくる可能性があります。そういった場合には、均等な学習機会を保障する観点から、オンラインでの受講も同時に認めていただかざるを得ません。ご配慮のほどお願いいたします。
- 事態の急変に伴い、オンライン授業に変更していただく場合もございます。予めご了承ください。
- 感染拡大防止のために、厚生労働省 新型コロナウイルス接触アプリCOCOAをスマートフォンにインストールしておくことを推奨します。

### 【ご参考】

高等教育研究開発推進センター オンライン授業サポートサイト

<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/>

教育学部・教育学研究科 オンライン授業サポートサイト

[https://adm.educ.kyoto-u.ac.jp/remote\\_ict/](https://adm.educ.kyoto-u.ac.jp/remote_ict/)

2020年9月16日

対面授業ご担当教員 各位

京都大学大学院教育学研究科・教育学部  
新型コロナウイルス対応ワーキンググループ

### 対面授業実施に当たっての確認事項

拝啓

この度は、後期の授業の実施にあたり、対面授業として実施の旨、お知らせ下さり、ありがとうございました。コロナ禍で様々な特別対応が求められる状況ではございますが、熱心に学生の指導に当たっていただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

先生方のご負担を増やすことは恐縮なのですが、感染拡大防止の観点から、下記の点についてご確認の上、「確認書」にご署名いただき、第1回の授業でご提出いただきたく、よろしく願いいたします。

また、京都大学で作成しております「学生・教職員の新型コロナウイルス感染確認時等における対応について（第2版）」ならびに「感染確認時等の連絡先」についても、あわせてご一読ください。

### 記

- 感染拡大により京都大学の活動制限レベルが上がった場合、学期途中でも、対面授業の中止、オンライン授業の実施をお願いする場合があります。
- 感染者が授業参加者であった場合に濃厚接触者を把握するため、毎回の授業で必ず出席をとり、記録を残してください。
- 対面授業を実施する場合、感染リスクが高いなど通学に不安を抱える学生、感染が疑われる症状がある等により出席できない学生に対しては、オンラインによる授業参加や録画などでの対応をお願いします（その場合、必要な機材の準備については、別紙をご覧ください）。  
※対面授業実施と、必要に応じたオンラインによる授業参加・録画の補佐のため、TAまたはOAを付ける予定です。詳細は、担当教員よりご連絡いたします。本確認事項については、担当TA・OAとも共通理解を図って下さい。
- 対面授業の初回において、すべての受講生に、「対面授業実施に当たっての確認事項（受講生用）」の配付と確認の指示をお願いします。
- 授業の実施に当たっては、授業開始の2週間前から、検温等による体調確認を行うとともに、感染リスクを伴う行動（飲食を伴う会合や旅行）の自粛をお願いします。
- 体温が平熱より高い場合や、せき・倦怠感・喉の痛み・味覚障害等、新型コロナウイルス感染が疑われる症状がある場合、TA、学生の授業への出席を不可としてください。
- 授業中は、教員、TA、学生とも、特段の事情がないかぎり必ずマスク等を着用し、近距離や真正面での会話は可能な限り避けてください。会話や討論が必要となる場合は、1 m程度の距離を保ち、

必要最低限の時間としてください。

- 教員、TA、学生は、授業開始前と終了後の 30 秒程度の石鹸による手洗いまたは各教室等に設置するアルコール消毒液による手指消毒を励行してください。
- 物（マイク、筆記具、情報機器等）は使い回しをしないでください（やむをえずマイクの共用が必要な場合はその都度消毒してください。実験器具等で共用が必要な場合はビニール手袋等を着用してください）。消毒用物品等については、事務室でお受け取り下さい。
- 授業中は、2 方向以上の窓あるいは出入口を開けてください（授業運営に支障がある場合は、最低 30 分に 1 回以上、数分程度 2 方向以上を全開して換気してください）。
- 授業終了後はキャンパスでの不要な滞在は避けてご帰宅ください。
- 感染者・濃厚接触者となった場合、同居者が濃厚接触者になった場合、感染類似症状が見られる場合には、下記までご報告ください、

**【教育学研究科の専任教員】**

教育学研究科総務掛

TEL：075-753-3000、3003 E-MAIL：020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

**【非常勤講師】**

教育学研究教職教務掛

TEL：075-753-3011、3012 E-MAIL：020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

また、その後の経過観察等の追跡調査へのご協力をお願いします。

以上

-----<切り取り線>-----

2020 年\_\_月\_\_日

京都大学大学院教育学研究科・教育学部  
新型コロナウイルス対応ワーキンググループ 宛

2020 年 9 月 16 日付けの「対面授業実施に当たっての確認事項」について、確認しました。

お名前： \_\_\_\_\_

**別紙** 授業実施に当たり、ご準備いただくもの

①消毒用物品等

- 手指消毒液（各教室に設置済みです。）
- アルコールスプレー\*
- キムワイプ\*
- ビニール手袋\*

\*必要な場合には、授業の都度、事務室でお受け取りいただき、授業が終わった際に返却をお願いします。

②Zoom による同時双方向の配信を行う場合

（事務でもご準備しております。必要なものは、事前にお知らせ下さい。）

- ノートパソコン（ECS-ID を用いて KUINS-Air につないで、Zoom をご利用ください。）
  - ※ KUINS-Air の接続方法：[http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/kuins/wifi/use/kuins-air\\_1.html](http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/kuins/wifi/use/kuins-air_1.html)
- スピーカーマイク
  - ※ ハイブリッド型授業の実施については、別添「ハイブリッド型授業：対面授業とオンライン授業の組み合わせ」並びに「ハイブリッド型（ハイフレックス型）実施のための設備について」もご参照下さい。
  - ※ ヘッドセットについては、ご準備しておりません。お使いのものをご持参いただければ幸いです。

③ビデオで録画し、オンデマンド型で動画を提供する場合

（事務でもご準備しております。必要なものは、事前にお知らせ下さい。）

- ビデオカメラ
- 三脚

2020年9月16日

対面授業受講生各位

京都大学大学院教育学研究科・教育学部  
新型コロナウイルス対応ワーキンググループ

### 対面授業実施に当たっての確認事項（受講生用）

対面授業の受講に当たり、下記の点を確認してください。また、京都大学で作成しております「学生・教職員の新型コロナウイルス感染確認時等における対応について（第2版）」ならびに「感染確認時等の連絡先」についても、あわせて確認してください。

### 記

- 京都大学の活動制限レベルが上がった場合、学期途中でも、対面授業の中止、オンライン授業の実施に切り替わる場合があること。
- 授業の実施に当たっては、授業開始の2週間前から、検温等による体調確認を行うとともに、感染リスクを伴う行動（飲食を伴う会合や旅行）を自粛すること。
- 体温が平熱より高い場合や、せき・倦怠感・喉の痛み・味覚障害等、新型コロナウイルス感染が疑われる症状がある場合、その旨、授業担当教員に報告して、大学には来ないこと（該当授業の代替措置について、担当授業に依頼してください）。
- 授業中は、特段の事情がないかぎり必ずマスク等を着用し、近距離や真正面での会話は可能な限り避けること。会話や討論が必要となる場合は、1 m程度の距離を保ち、必要最低限の時間にすること。
- 授業開始前と終了後の30秒程度の石鹸による手洗いまたは各教室等に設置するアルコール消毒液による手指消毒をすること。
- 物（マイク、筆記具、情報機器等）は使い回しをしないこと（やむをえずマイクの共用が必要な場合はその都度消毒すること。実験器具等で共用が必要な場合はビニール手袋等を着用すること）。
- 授業中は、2方向以上の窓あるいは出入口を開けること（授業運営に支障がある場合は、最低30分に1回以上、数分程度2方向以上を全開して換気すること）。
- 授業終了後はキャンパスでの不要な滞在は避けて帰宅すること。
- 感染者・濃厚接触者となった場合、教育学研究科・教育学部の学生は、教職教務掛（TEL：075-753-3011、3012、E-MAIL：[020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)）に、それ以外の者は所属部局の教務掛に速やかに報告するとともに、当該の対面授業に出席していたことを伝えること（その後の経過観察等の追跡調査にも協力してください）。

以上

## 学生・教職員の新型コロナウイルス感染確認時等における対応について（第2版）

(R2.4.22 一部改正)

(R2.8.7 一部改正)

### (1) 学生・教職員の感染が確認された場合

#### 感染した者が行うこと

- ①速やかに所属部局に報告
  - ②保健所の指示に従い、入院又は宿泊施設もしくは自宅にて療養
  - ③退院又は宿泊（自宅）療養解除時に受ける主治医や保健所の指示・指導に従い、その内容を所属部局に報告
- ※退院等後、登校禁止、就業禁止が解除されるまでの間は、引き続き、体調の経過観察を行う

#### 該当部局が行うこと

- ①速やかに感染者の情報を危機対策本部へ報告
  - ②保健所及び危機対策本部の指示により、活動・業務を停止し、関係者へ自宅待機の指示
  - ③保健所及び危機対策本部と連携し、感染者が発病する2日前以降の行動及び濃厚接触した者を特定
  - ④保健所の指導のもと、危機対策本部と連携し、感染者の勤務等していた建物や部屋などの消毒作業（必要な場合は一時閉鎖）
  - ⑤危機対策本部の指示により、活動・業務の再開（感染者が担当していた業務等の支援体制の整備）
  - ⑥感染者より、退院又は宿泊（自宅）療養解除時に受けた主治医や保健所からの指示・指導の内容や職場復帰の目安(※)に基づき、登校禁止、就業禁止の解除を決定し、併せて危機対策本部に報告
- (※)職場復帰の目安は、次の1)および2)の両方の条件を満たすこと
- 1) 発症後に少なくとも14日が経過している
  - 2) 薬剤\*を服用していない状態で、解熱後及び症状\*\*消失後に少なくとも3日が経過している
- \*解熱剤を含む症状を緩和させる薬剤    \*\*咳・咽頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢など

#### 危機対策本部が行うこと

- ①保健所より感染者情報を入手した場合、速やかに該当部局に報告
- ②保健所の指導のもと、該当部局の活動・業務の停止を指示
- ③保健所及び該当部局と連携し、濃厚接触者の特定
- ④保健所の指導のもと、該当部局と連携し消毒作業
- ⑤保健所の指導のもと、該当部局の活動・業務の再開の指示
- ⑥学内外への広報
- ⑦業務等の支援体制への協力

(2) 学生・教職員が濃厚接触者となった場合

濃厚接触者となった者が行うこと

- ①速やかに所属部局に報告
  - ②保健所及び本学の指示・指導に従い、感染者と接触した最後の日から14日間は自宅待機（業務命令、自宅学習など）及び体調の経過観察
  - ③発熱・咳等の症状が出れば、医療機関には直接行かず、相談窓口又は管轄の保健所に相談
  - ④相談窓口又は管轄の保健所から指定された医療機関を受診し、新型コロナウイルス陽性と診断された場合は、上記（1）により対応
  - ⑤14日間の体調の経過観察後、体調に問題が無ければ、所属部局へ経過観察の結果を報告
- ※濃厚接触者と判断されなかった場合、発熱・咳等の症状がなければ、登校、就業は可能
- ただし、必ず14日間は体調の経過観察を行い、所属部局へ経過観察の結果を報告

該当部局が行うこと

- ①速やかに濃厚接触者の情報を危機対策本部へ報告
  - ②保健所及び危機対策本部の指示・指導のもと、濃厚接触した者に対して、感染者と接触した最後の日から14日間の自宅待機（業務命令、自宅学習など）及び体調の経過観察を指示
  - ③濃厚接触者が担当していた業務等の支援体制の整備
  - ④報告を受けた14日間の体調の経過観察の結果を危機対策本部に報告後、自宅待機（業務命令、自宅学習など）の解除を指示
  - ⑤濃厚接触者が、医療機関を受診し新型コロナウイルス陽性と診断された場合は、上記（1）により対応
- ※濃厚接触者と判断されなかった者より報告のあった経過観察の結果を危機対策本部へ報告

危機対策本部が行うこと

- ①保健所より濃厚接触者情報を入手した場合は、速やかに該当部局に報告
- ②保健所の指導のもと、該当部局へ濃厚接触した者に対して、感染者と接触した最後の日から14日間の自宅待機（業務命令、自宅学習など）及び体調の経過観察を指示
- ③業務等の支援体制への協力

(3) 同居者が濃厚接触者となった場合

学生・教職員が行うこと

- ①速やかに状況を所属部局に報告
- ②学生・教職員は、自宅待機（業務命令、自宅学習など）
- ③同居する濃厚接触者がPCR検査を受け、「陰性」となった場合、保健所との相談のもと、学生・教職員の自宅待機は解除
- ④同居する濃厚接触者がPCR検査を受け、「陽性」となった場合、所属部局に状況を報告し、保健所及び危機対策本部等の指示・指導のもと、上記（2）により対応

(厚生労働省：家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf>

(日本環境感染学会：新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage\\_00009.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html)

#### 該当部局が行うこと

- ①速やかに状況を危機対策本部へ報告
- ②同居している濃厚接触者が、医療機関を受診し新型コロナウイルス陽性と診断された場合は、上記(2)により対応

#### 危機対策本部が行うこと

- ①該当者に関する情報を部局と共有
- ②必要に応じ、保健所等との連絡調整
- ③濃厚接触者となった場合は、上記(2)により対応

#### (4) 学生・教職員が新型コロナウイルス感染類似症状を呈した場合

※類似症状とは、咳・喉頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢・高熱などを指す。また、それ以外の疾患の確定診断が付いている場合は除外する。

#### 学生・教職員が行うこと

- ①類似症状を呈した場合は、医療機関又は保健所に相談(PCR検査を受けることも含め)のうえ、自宅待機(業務命令、自宅学習など)及び体調の経過観察
- ②速やかに状況を所属部局に報告  
※PCR検査を受けることとなった場合にも所属部局に報告  
※新型コロナウイルス陽性と診断された場合は、上記(1)により対応
- ③以下2点の両方を満たした場合、自宅待機は解除
  - ・発症後8日以上が経過している(起算日：発症日を0日目)
  - ・薬剤を服用していない状態で、解熱後および症状消失後、3日以上が経過している(起算日：解熱日・症状消失日を0日目)
- ④自宅待機の解除後1週間は、体調の経過観察を行う

#### 該当部局が行うこと

- ①以下2点の両方を満たした場合、自宅待機の解除
  - ・発症後、8日以上が経過している(起算日：発症日を0日目)
  - ・薬剤を服用していない状態で、解熱後および症状消失後、3日以上が経過している(起算日：解熱日・症状消失日を0日目)

#### (5) 学外の感染者が学内に立ち入った場合

#### 該当部局が行うこと

- ①危機対策本部より、濃厚接触した者がいたと連絡があった場合は、上記(2)により対応

危機対策本部が行うこと

- ①保健所等の指示・指導のもと、学内で濃厚接触した者を把握
- ②濃厚接触した者がいた場合は、保健所の指示・指導のもと、所属部局に報告し、上記(2)により対応
- ③保健所の指導のもと、該当部局と連携し、消毒作業

(参考)

- ◎ 「濃厚接触者」とは、「患者(確定例)」が感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者を指す。
  - ・ 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
  - ・ 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、看護若しくは介護していた者
  - ・ 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
  - ・ 手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、「患者(確定例)」と15分以上の接触があった者(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)
  
- ◎ 「患者(確定例)」とは、「臨床的特徴等から新型コロナウイルス感染症が疑われ、かつ検査により新型コロナウイルス感染症と診断された者」を指す。
  
- ◎ 「感染可能期間」とは、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状(以下参照)を呈した2日前から隔離開始までの間、とする。
  - ※ 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など
  
- ◎ 登校禁止、就業禁止及び自宅待機(業務命令、自宅学習)の解除に際し、医療機関に対して「治癒証明書」や「陰性証明書」の発行を求めない。
  
- ◎ 保健所等の行政機関との連絡調整は、危機対策本部が担当する。
  
- ◎ 濃厚接触者の判断、消毒作業について
  - ・ 保健所が感染者の行動を確認し、現地調査などに基づき事業所と協議の上、濃厚接触者や消毒場所を決定することになる。
  - ・ 濃厚接触者の判断については、同じ事務室内で業務を行っていたとしても、明らかな接触がないことなどにより、濃厚接触者とならない場合もある。
  - ・ 消毒作業に関しては、小さな事務室であれば1日程度で終了し、翌日から業務を再開した例もある。
  
- ◎ 消毒作業については、保健所及び危機対策本部の指示・指導のもと、専門業者に依頼することを基本とする。

ただし、緊急を要し、清掃業者を手配できない場合、危機対策本部において当該部局と連

携し、消毒作業を実施する。

本学教職員が消毒作業を行う場合は、感染者が利用した区域（部屋、エレベータ、廊下、トイレ等）のうち手指が頻回に接触する箇所（ドアノブ、スイッチ類、手すり、洗面、便座、流水レバー等）を中心に、「(文科省) 新型コロナウイルス感染症防止のための小学校等の臨時休業に関連した放課後児童クラブ等の活用による子どもの居場所の確保について」※1 や「(環境安全保健機構) 新型コロナウイルス感染症予防他のための消毒方法」※2 を参考に実施する。

※1 <https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000602409.pdf>

※2 <http://www.hoken.kyoto-u.ac.jp/local/wp-content/uploads/sites/2/2020/03/9a6fe8e2ed004eb5936b17c09f7bf943.pdf>

(問い合わせ先)

総務部企画管理主幹付リスク管理掛

Tel. 075-753-2226

E-mail: 830riskkanrikakari@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※14 日間の体調の経過観察の提出先

施設部環境安全保健課保健衛生掛

Tel. 075-753-2400

E-mail: hoken-corona@hoken.kyoto-u.ac.jp

※体調の経過観察については、別添様式をご使用ください。

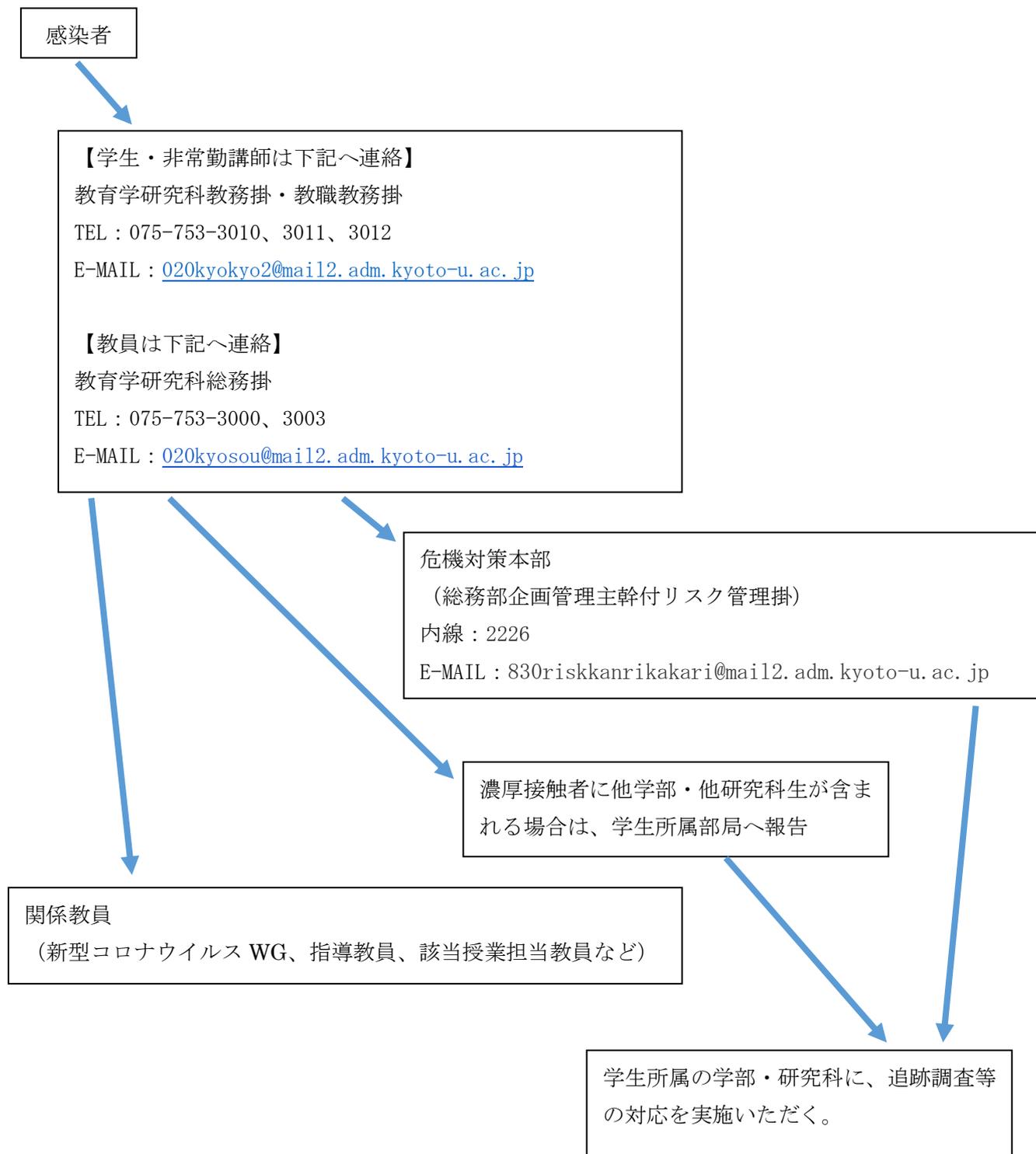
## 学生・教職員の新型コロナウイルス感染確認時等の連絡先

(詳細は京都大学「学生・教職員の新型コロナウイルス感染確認時等における対応について(第2版)」を確認すること)

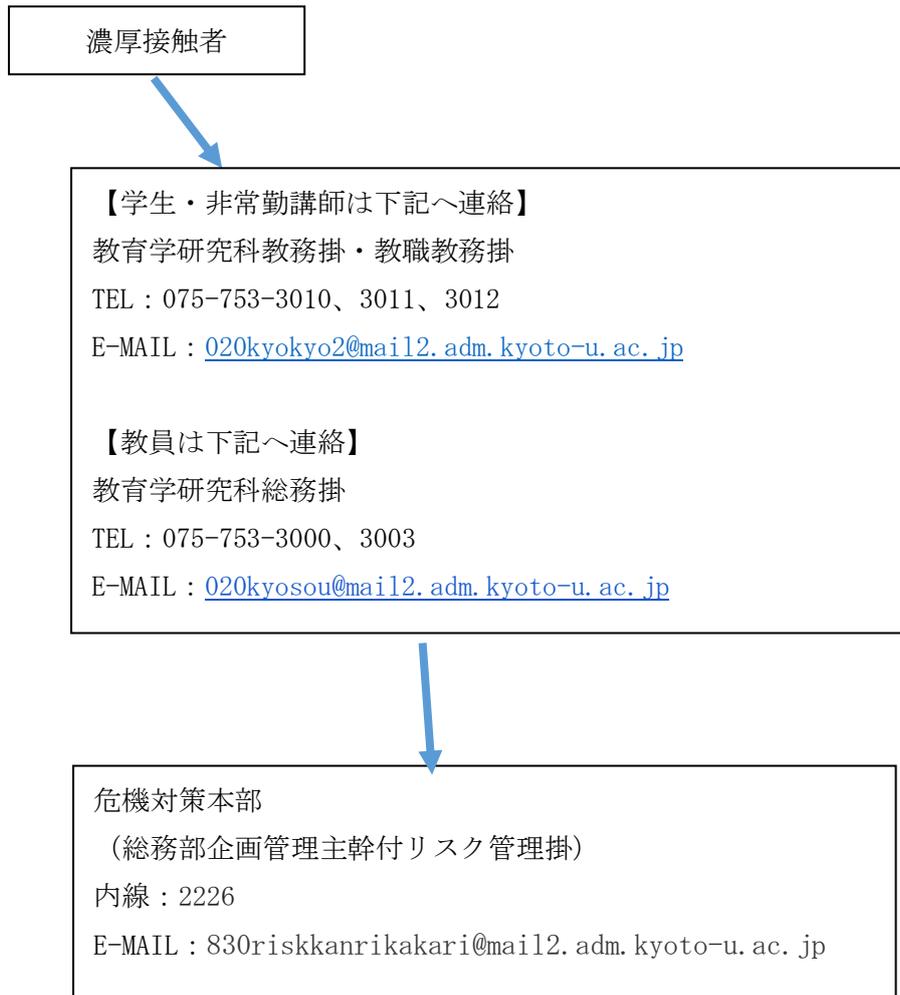
2020/09/16

教育学研究科 新型コロナウイルス対応 WG

### 【①教育学部・教育学研究科の学生・教職員の感染が確認された場合】



【②教育学部・教育学研究科の学生・教職員が濃厚接触者となった場合】



◆その他

- ・同居者が濃厚接触者となった場合も下記へ報告してください。

【学生・非常勤講師】

教育学研究科教務掛・教職教務掛

TEL：075-753-3010、3011、3012

E-MAIL：[020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

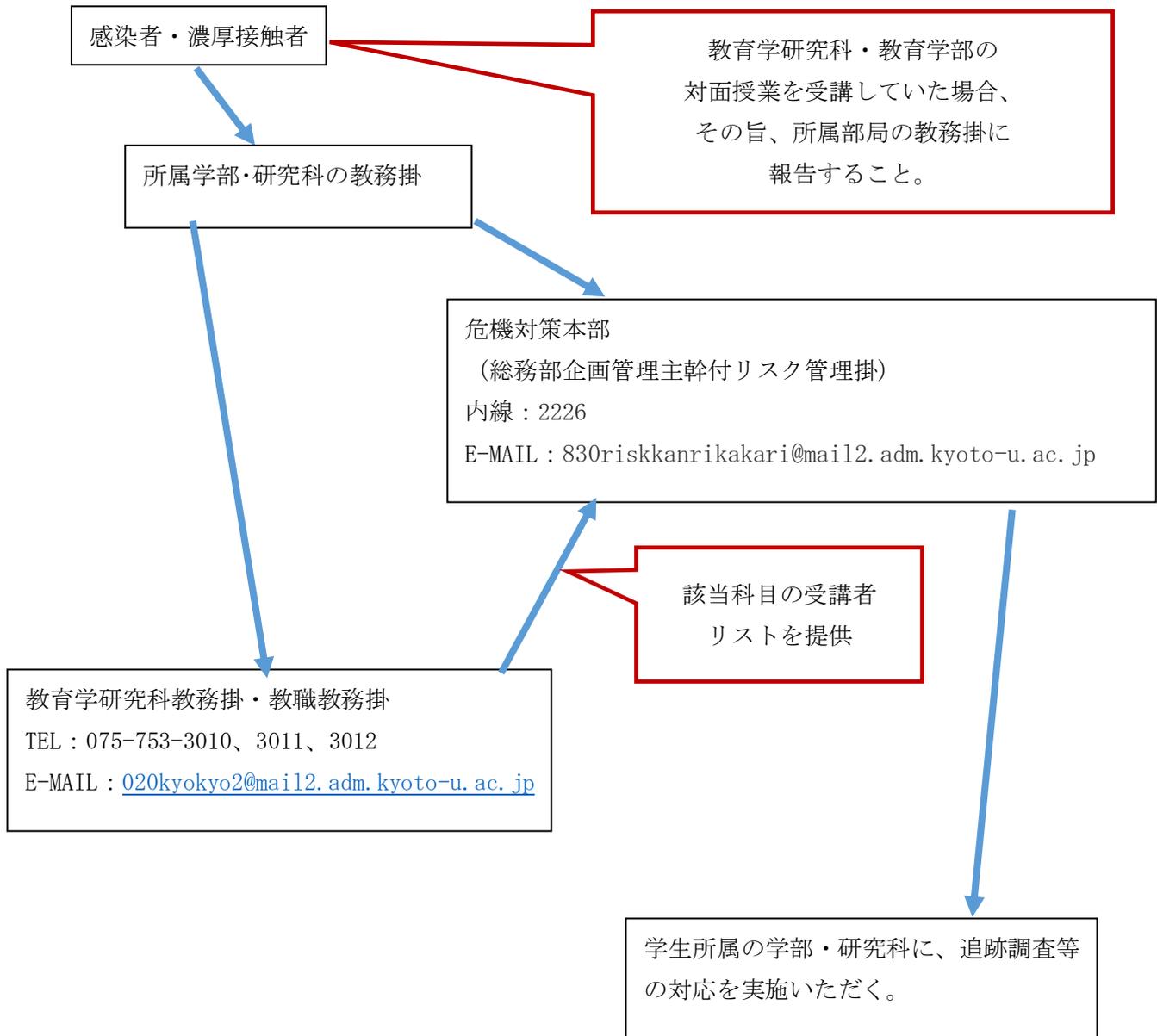
【教員】

教育学研究科総務掛

TEL：075-753-3000、3003

E-MAIL：[020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

【③教育学部・教育学研究科が開講する授業を受講する、教育学部・教育学研究科以外の学生が感染者・濃厚接触者となった場合】



#### 【④同居者が濃厚接触者になった場合】

**【学生・非常勤講師は下記へ連絡】**

教育学研究科教務掛・教職教務掛

TEL：075-753-3010、3011、3012

E-MAIL：[020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

**【教員は下記へ連絡】**

教育学研究科総務掛

TEL：075-753-3000、3003

E-MAIL：[020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)



危機対策本部

(総務部企画管理主幹付リスク管理掛)

内線：2226

E-MAIL：[830riskkanrikakari@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:830riskkanrikakari@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

#### 【⑤感染類似症状が見られる場合】

※類似症状とは、咳・喉頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢・高熱などを指す。また、それ以外の疾患の確定診断が付いている場合は除外する。

**【学生・非常勤講師は下記へ連絡】**

教育学研究科教務掛・教職教務掛

TEL：075-753-3010、3011、3012

E-MAIL：[020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

**【教員は下記へ連絡】**

教育学研究科総務掛

TEL：075-753-3000、3003

E-MAIL：[020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:020kyosou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

# ハイブリッド型授業： 対面授業とオンライン授業の 組み合わせ方

高等教育研究開発推進センター 准教授

田口真奈

# ハイブリッド型授業とは

- ここでは、「対面授業とオンライン授業を組み合わせる授業」を指す
- なぜ、組み合わせるのか
  - オンラインだけでは教えられない学習内容がある  
たとえば、実験、実習、演習など

# ハイブリッド型授業とは

- ここでは、「対面授業とオンライン授業を組み合わせる授業」を指す
- なぜ、組み合わせるのか
  - オンラインだけでは教えられない学習内容がある  
たとえば、実験、実習、演習など
  - 学生が「キャンパスに来られない」ために「友達もできない」状況をなんとかしたい
    - ... 対面「授業」が唯一の解か？

# キャンパスに「まったく来られない」「友達ができない」学生の不安や不満をどうするか

- 「授業」以外の機会を考えてみる

例えば、大阪大学の「ウエルカム！阪大」イベント など

ひとりでメディア授業を受講しているけど、友達ができない・・・  
キャンパスってどんな雰囲気？  
学食を味わってみたい！  
などなど・・・

新入生のみなさんのこんな要望に少しでもお応えします！

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/event/2020/06/0901>

- 「オンライン」でもできることがもう少しないか考えてみる

例えば、教育学部の「新入生向け教員・研究室紹介」イベント など

- 「オンライン授業」でもできることを考えてみる

例えば、「協働で学ぶ」学習活動を取り入れてみる など

# それでも「対面」授業が必要！

## Teaching Online@京大

オンラインでも  
できること  
オンラインだから  
できること



「オンラインでもできること」で学生の皆さんの学びを止めないことが重要です。さらに、この機会に「オンラインだからできること」に挑戦すれば、通常授業が可能となった時に学びを加速しより豊かにすることができるかもしれません。

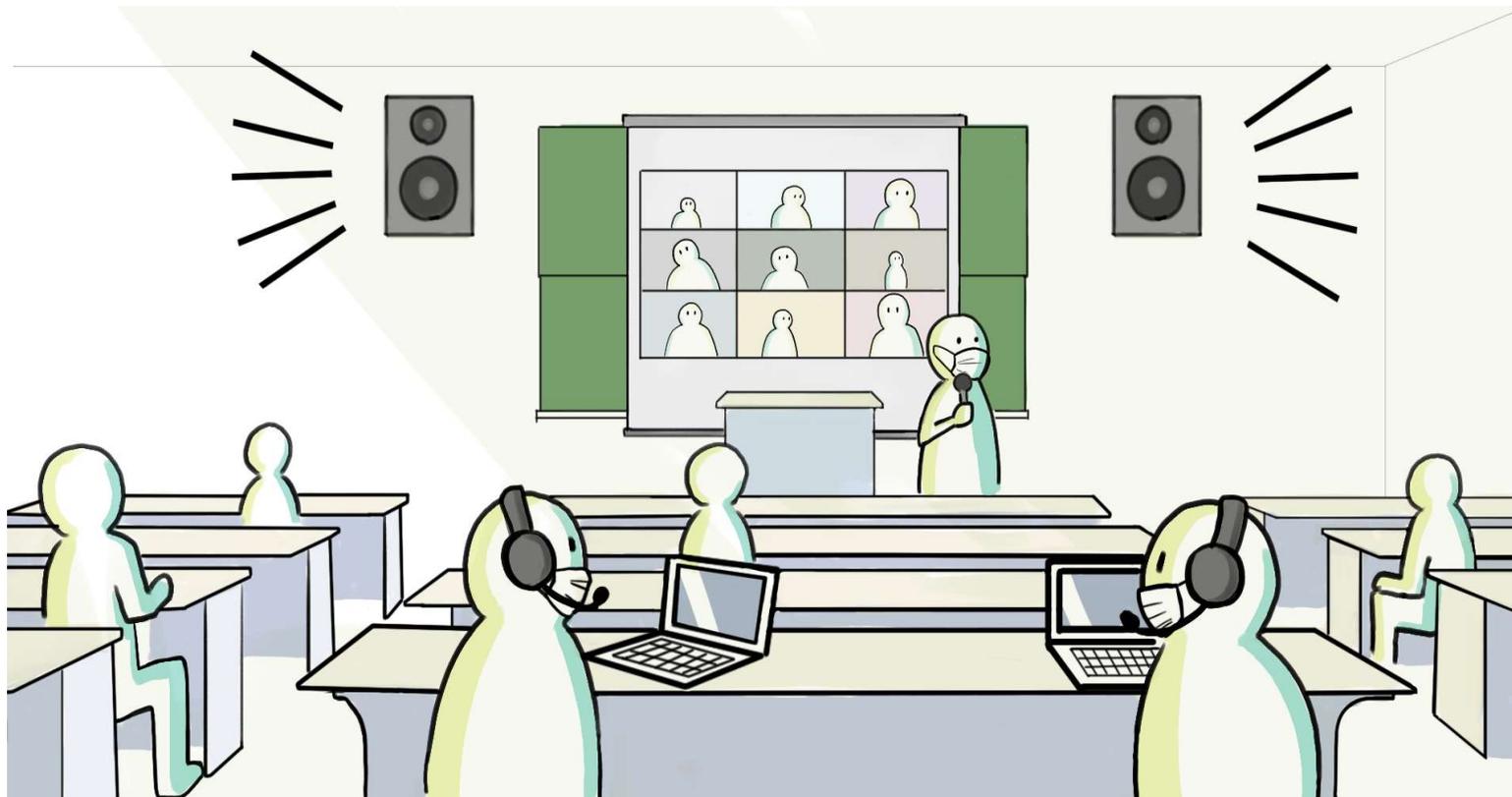
「対面だからできること」 が組み合わせられれば最強

# ハイブリッド型授業ー 3つのタイプ

- ハイフレックス型
  - 同じ内容の授業を，対面とオンラインで同時に行う授業方法
- ブレンド型
  - 対面とオンラインを，教育効果を考えて組み合わせる授業方法
- 分散型
  - 同じ回に異なる内容の授業を対面とオンラインで行い，学生は分散して受講する授業方法

# ハイフレックス型

- HyFlex (Hybrid-Flexible)
- 学生は**同じ質の授業**をオンラインでも対面でも受講できる



# ハイフレックス型

- メリット

- 学生は自身の状況に応じて、オンラインでも対面でも受講できる。  
(ただし、事前に固定しておくことが望ましい)
- 対面授業ができなくなったときに、フルオンライン授業への移行が容易

- デメリット

- 教室環境の設定が大変
- 教室と対面の両方の学生に注意しながら授業を行うため教員の負荷が高い  
→TAがいることがのぞましい
- 事前のテストが必要



# ハイフレックス型の環境設定

- 教室環境において、教員はマイクが必要か
- 学生の発話がどの程度必要か（スピーカーマイクが必要か）
- 学生はPCをもってくるのかどうか

...

等によって異なる

詳しくは、のちほど、情報環境機構の中村先生より

# ブレンド型

- Blended
- 対面とオンラインを、**教育効果を考えて**組み合わせる教育方法
- たとえば、15回の授業のうち、初回や、対面が望ましい回を対面を実施し、それ以外はオンラインで実施するなど
- 対面授業の回を絞り込むことは、感染リスクの軽減や、教室環境の準備の負担軽減にもつながる



15回の授業

# ブレンド型

- メリット

- 各回の授業の目的にあわせて対面，オンラインを選択するため，教育効果が高い。
- 対面での反応とオンラインでの反応の両方を確認しながら授業を進めることができる。

- デメリット

- 全員が対面授業に参加する回があるので、十分な広さの教室を確保する必要がある
- オンラインしか参加できない学生に対しては、対面と全く同じ効果は見込めない。（授業の録画ビデオや説明を付した配布資料をPandAにアップロードするなどのフォローが考えられる）



15回の授業

# 参考：反転授業とは

- 反転授業は，ブレンド型の一つの形態

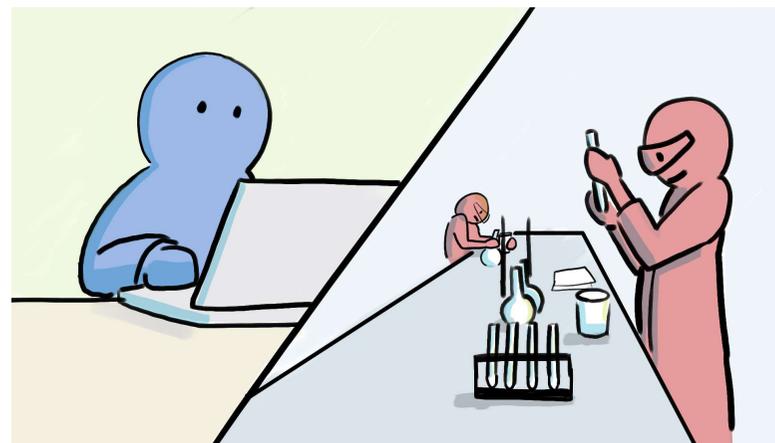


- 知識の獲得のための時間と，知識の応用や発展のための時間を授業内外で組み合わせて行うことに特徴がある。

→すべてオンラインでも可能

# 分散型

- コロナ禍下で**急遽必要な場合**に実施する方法
- 受講生を学籍番号の奇数・偶数などで分け、半分の学生は対面授業を受講，残りの学生はオンライン授業（教員が準備したオンデマンド型，あるいは別教員やTAによる同時双方向型の授業）を受講する．次の回ではそれを入れ替える．



# 分散型

**A**グループ



**B**グループ

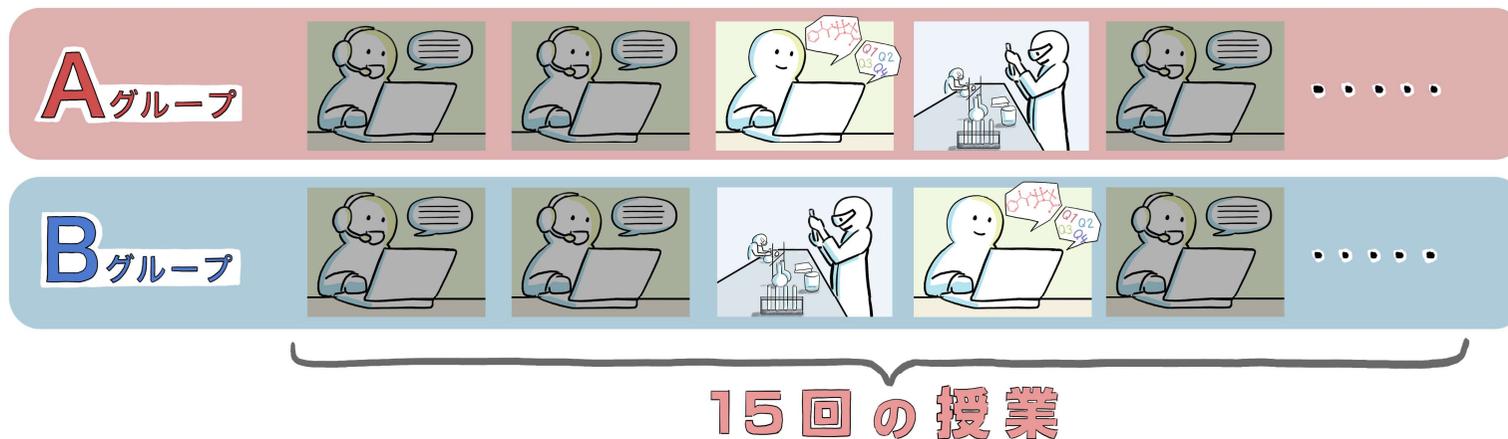


## 15回の授業

- たとえば、どうしても実験をさせなければならないが、クラス全員が一度に参加して実施するのは（器機の共有ができないなどのため）無理  
（こういう条件があれば可能かも）  
順序を入れ替えることが可能なオンデマンド型授業の蓄えがある。  
チームティーチングが可能である。

# 分散型

- メリット
  - 人数制限が必要な対面授業を，授業回数を増やすことなく実施可能
- デメリット
  - オンライン授業，対面授業の両方の準備を平行して行う必要があるため，教員の負荷がとても高い。
  - 学生によって，対面とオンライン授業の順序が違うことに注意してオンライン授業で扱う内容を選択する必要があるため，コースデザインが複雑



# ハイブリッド授業を実施すると…

- 対面授業に参加する学生にとっては、時間割に「オンライン」と「対面」が混在することになる
  - 移動の時間を見越しておくことが必要となる
    - 授業選択の際に、対面参加がどの程度必要な授業なのかがわかるように
- オンライン授業を学内で受講できる場所はどこか

# ハイブリッド型授業 (ハイフレックス型) 実施のための設備について

2020/9/4

中村素典 / 情報環境機構

# オンライン授業における「音」

- 授業では「音声品質」が最も重要
  - いかにして聞きやすい音を受講者全員に届けるか
  - 「音の大きさ」や「鮮明度」に加えて、「ハウリング」や「エコー」対策が必要
- オンライン授業では、各参加者（講師と受講者）がそれぞれ「音響設備」を持ち、相互に影響する
  - 従来の対面のみ授業と比べて格段に問題が発生しやすい
  - ハイフレックス型では、対面と遠隔（リモート）の受講者を同時に考慮する必要がある
- 扱うべき「音」
  - 講師の声
  - 教室内の受講者の声
  - 遠隔（リモート）の受講者の声
  - 教材の音声（ビデオなど）

# オンライン授業での 「音声接続の大原則」

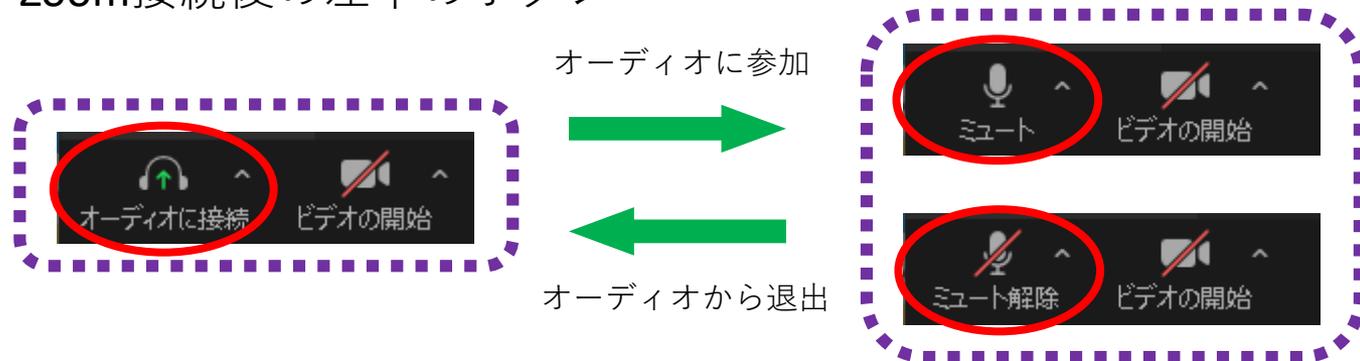
- 話さない時は、必ずマイクを「ミュート」する。
- 同じ部屋で複数の端末を接続する場合は、音声をやりとりする端末を**1台**に決めて、それ以外の端末は音声接続を切っておく（「オーディオから退出」推奨）。
  - 「ミュート」（マイクOFF）だけでなく「スピーカもOFF」
  - 複数の端末のマイク、スピーカが有効になっていると、音が回り込んでエコーが発生し、「相手が」聞き取りづらくなります。

オーディオに接続しないときは×で閉じる



Zoom接続時の確認画面

Zoom接続後の左下のボタン



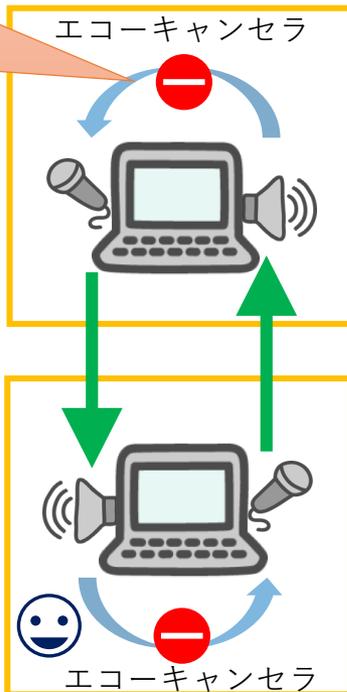
# (参考) エコーの原因と対策

声がこもる、響く、声の大きさが数秒間隔で変化する・途切れる、など

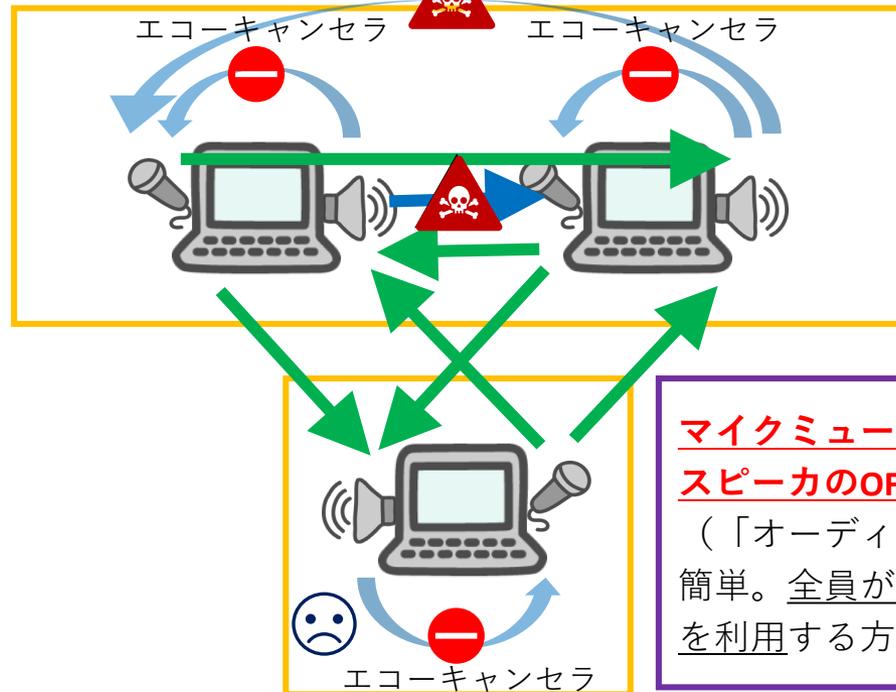
他の端末からの音があると音の回り込みが発生（遅延があるので消しきれない）

同じ端末から出た音を送り返さないよう消し込み処理を行う

## 基本形



## 一つの部屋に複数台



マイクミュートに加えて  
スピーカのOFFが必要  
（「オーディオの退出」が簡単。全員がヘッドフォンを利用する方法も有効。）

問題があると、相手に迷惑をかける（自分では気づきにくい）

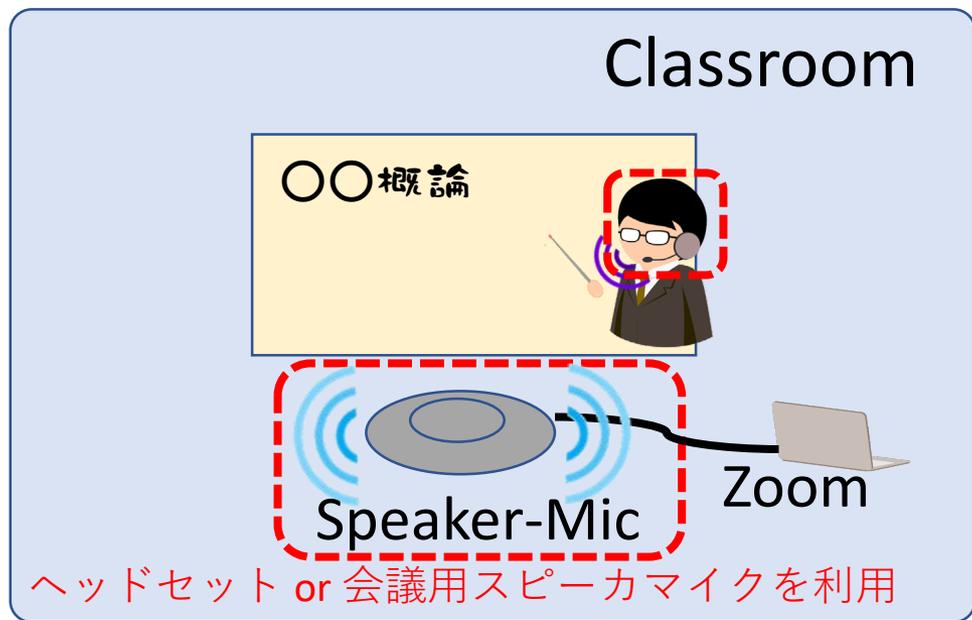
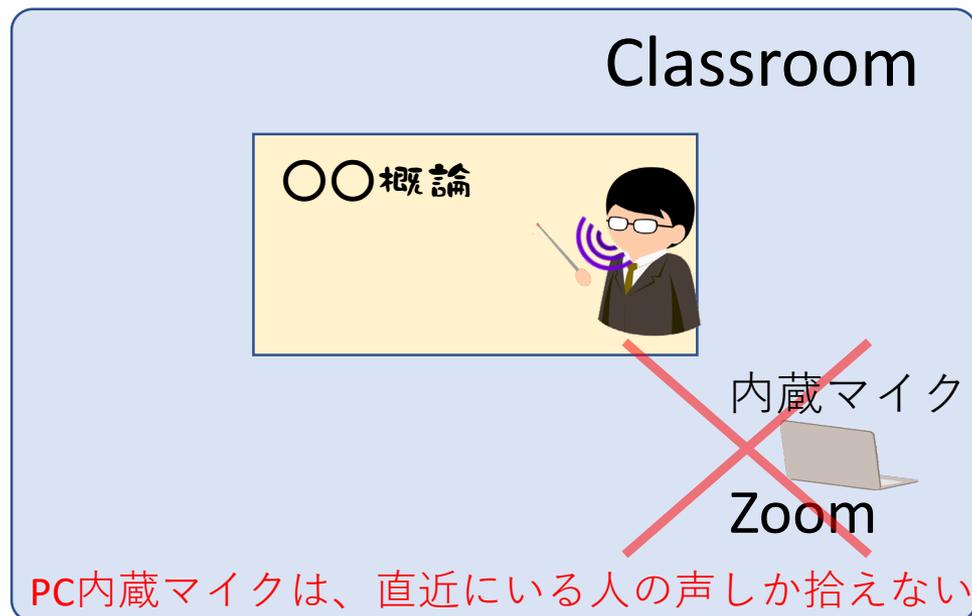
# 前提条件



- ハイフレックス型：対面授業とオンライン（ライブ）授業の同時（混在）実施
  - 教室での対面に加えて、自習室からリモート参加（or 自宅からリモート参加）
- 教室ではできるだけ間隔をあけて座る（⇒一つのマイクの近くに集まることが困難）
- 感染防止のため、ハンドマイクの手渡しを避ける
- 授業直前の準備（接続作業など）にあまり時間がかからないこと

# ハイブリッド授業での マイク利用方法

- マイクは音が拾える範囲に注意
  - PCのマイクは一般的に、直近・正面の声しか拾えない
- 声が相手によく聞こえる方法を準備
  - **ヘッドセット**あるいは**イヤホンマイク**（有線/Bluetooth等のワイヤレス）を利用する
    - ノイズ（すれる音、息を吹きかける音など）にも注意
    - ワイヤレスは電池切れに注意
  - 会議用**スピーカマイク**であれば、数メートルの範囲の声を拾うことができる
    - 離れすぎないように
    - スピーカマイクに向けて話す



# 利用する音響設備に基づく授業スタイル (実施方法) の分類

	+ 教室マイクなし	+ 教室マイク併用
ヘッドセット利用型	少人数 主として講師が話す	多人数 主として講師が話す
スピーカマイク利用型	少人数 受講者間対話 (一部)	多人数 受講者間対話 (一部)
全員ヘッドセット利用型	多人数 受講者間対話 (全員)	

「ヘッドセット」は「イヤフォン・マイク」でも可

- 右や下にいくほど、難易度が上がる  
(エコーなどの音声トラブルが発生しやすい)
- それぞれの実施方法について、以降で紹介

# 全てに共通する配慮点

- Zoom画面共有をプロジェクタで投影
  - 教室と遠隔（リモート）で同じ内容が見えるように
  - 講師用端末とは別に、Zoom受信専用（表示用）端末を用意すると、遠隔側に見えている状況が確認しやすい
- 「指示」はPC上のポインタ機能を利用する
  - リモート受講者にもどこを指しているかが判るように
- 聞きやすい講師の声を届けることを第一目標に
  - 「ヘッドセット」を利用することで、声の大きさが安定する
  - 必ず事前確認（リハーサル）を行う
  - 受講者からの質問はチャット（Zoom、PandAのチャットルームなど）で対応
- クラウドレコーディング機能の活用
  - 授業に参加できなかった受講者向け（教室に入れず、自習スペースも見つからない等）

# ヘッドセット利用型 (+ 教室マイクなし)

準備する機器・設備が最も少ない  
主として講師が話す  
少人数クラス向き

Remote  
(Home)



Zoom

直接話せない

Remote  
(Self Learning Space)

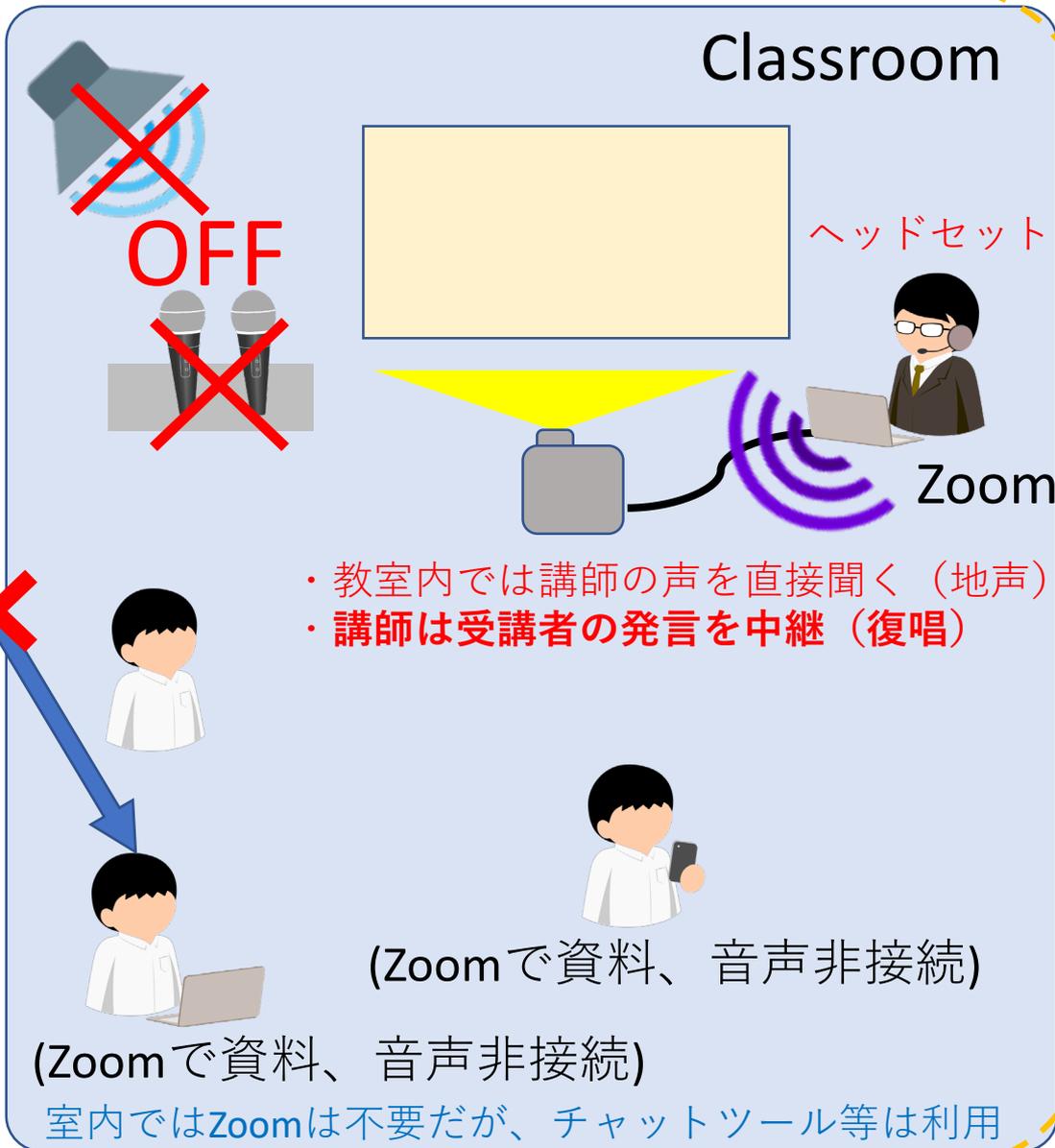


Zoom



Zoom

(Separation)



リモートの声は講師にしか聞こえない。教室の声はリモートに聞こえない。

# 実施に向けた準備

## 「ヘッドセット利用型（+教室マイクなし）」

- 講師用ヘッドセット
  - 前期の**フルオンライン授業**に利用していたもので可
  - ただし、教室内の受講者の声と遠隔（リモート）受講者の声の両方が聞こえるよう、片耳のみ装着するか、開放型（周囲の音も聞こえるタイプ）を推奨
  - ヘッドセットを利用せず、PCの標準マイクを利用しても構わないが、標準マイクが声を拾う範囲が限定的なので、話す向きが変わると、声の大きさが大きく変化することに注意
- 教室内受講者への指示
  - 教室内ではZoomに音声接続させない
- 受講者からの質問対応
  - 音声による場合は、講師が必ず復唱して中継する
  - チャット機能で質問を受け付ける場合はTAの補助が望ましい

# ヘッドセット利用型 + 教室マイク併用

主として講師が話す  
多人数クラス向き

Remote (Home)



Zoom

Classroom

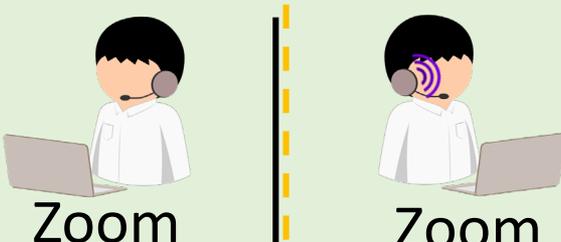
教室のマイクを併用

ヘッドセット

Zoom

直接話せない

Remote (Self Learning Space)



Zoom Zoom

(Separation)

- ・ 教室内では講師の声を音響設備で拡声
- ・ 講師は受講者の発言を中継 (復唱)



(Zoomで資料、音声非接続)

(Zoomで資料、音声非接続)

室内ではZoomは不要だが、チャットツール等は利用

リモートの声は講師にしか聞こえない。教室の声はリモートに聞こえない。

# 実施に向けた準備

## 「ヘッドセット利用型＋教室マイク併用」

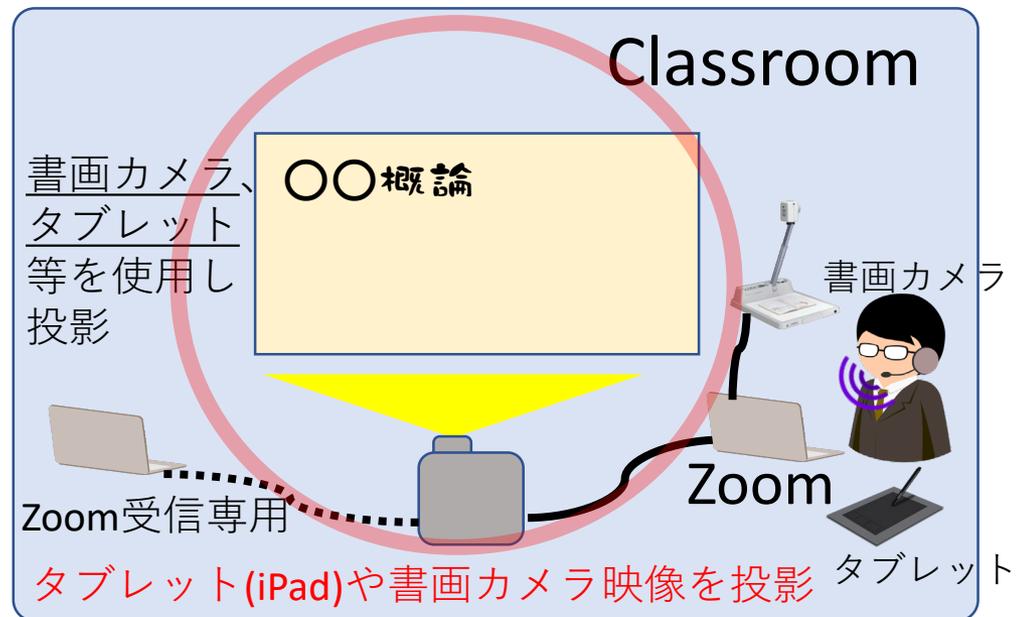
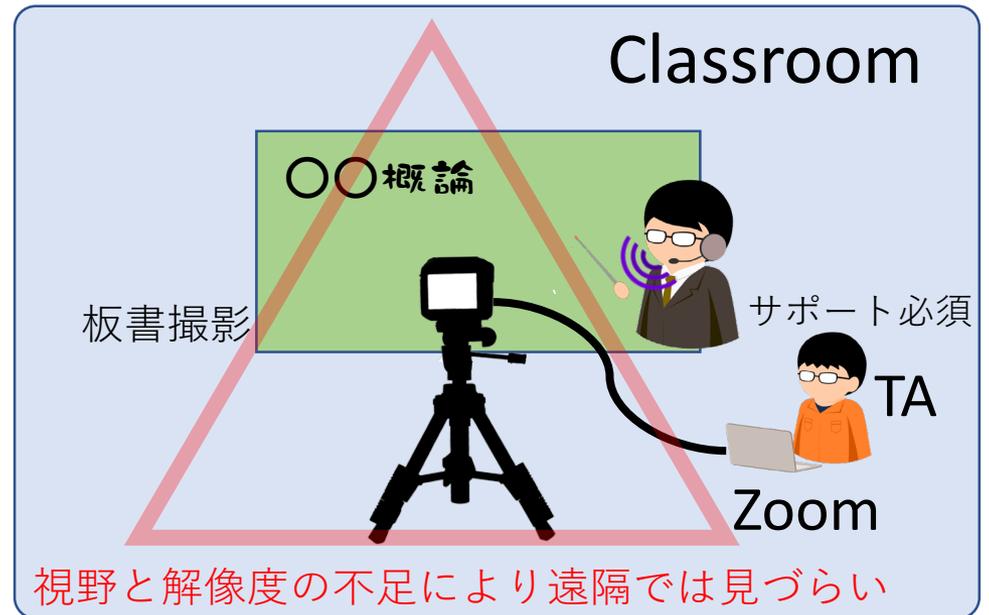
- 講師用ヘッドセット（再掲）
  - 前期の**フルオンライン授業**に利用していたもので可
  - ただし、教室内の受講者の声と遠隔（リモート）受講者の声の両方が聞こえるよう、片耳のみ装着するか、開放型（周囲の音も聞こえるタイプ）を推奨
- 教室のマイクも利用する
  - ヘッドセットをしたまま教室のスピーカに近づくと、直接の声とスピーカからの声が重なって、遠隔（リモート）で音声聞き取りにくくなる可能性がある
- 教室内受講者への指示（再掲）
  - 教室内ではZoomに音声接続させない
- 受講者からの質問対応（再掲）
  - 音声による場合は、講師が必ず復唱して中継する
  - チャット機能で質問を受け付ける場合はTAの補助が望ましい

# ハイブリッド型授業での 板書方法

- 板書をカメラで撮影してZoom越しに鮮明に見せるのは困難
  - 高解像度カメラが必要
  - 読みやすく撮影されているか確認・調整するTAが必要
- 代わりに
  - タブレットのホワイトボードアプリにペンで書き込む (Zoomのホワイトボード機能はお勧めしない)
  - 書画カメラで紙に書き込む

などによる対応が望ましい

- このような映像をプロジェクタで投影するとともにZoomで遠隔に送信
  - 教室と遠隔で同じものが見える
- プロジェクタ投影用Zoom受信端末 (音声なし) を別途用意することができれば、講師が準備する機材は、前期のフルオンライン授業とほぼ同様
  - 講師用PC画面に授業メモ等、受講者に見せたくないものも表示できる



# 画面共有



- 共有したいものを選択して、共有を開始します。

画面全体を共有する場合

アプリケーションを指定して共有する場合

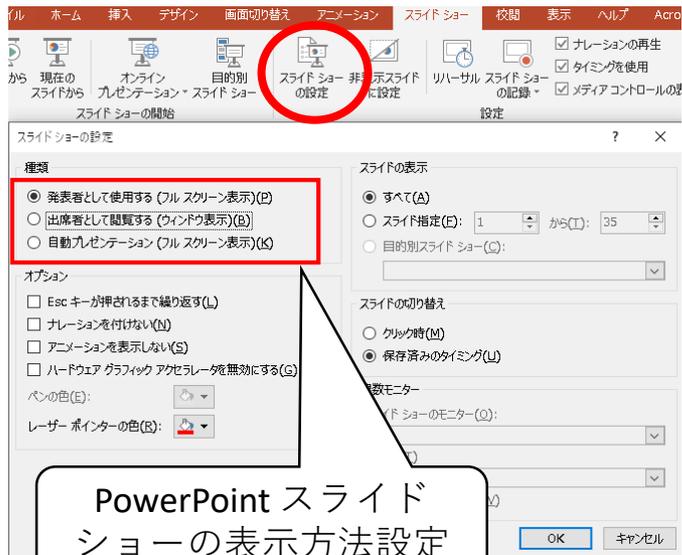
アプリケーションからの出力音声を流す場合

※PowerPointのスライドショー画面（フルスクリーン）をアプリケーション指定で共有したい場合は、**スライドショー開始後**に画面共有の操作が必要です。  
（Windowsの場合は「Alt+Tab」でアプリケーション切替をする等）

# 画面共有時のポインター利用 (どこを説明しているかわかるように)

## ① PowerPointの「レーザーポインター」機能を利用

- 「フルスクリーン表示」の場合のみ利用可能な機能です。
- 「出席者として閲覧する」の場合には②の方法で。



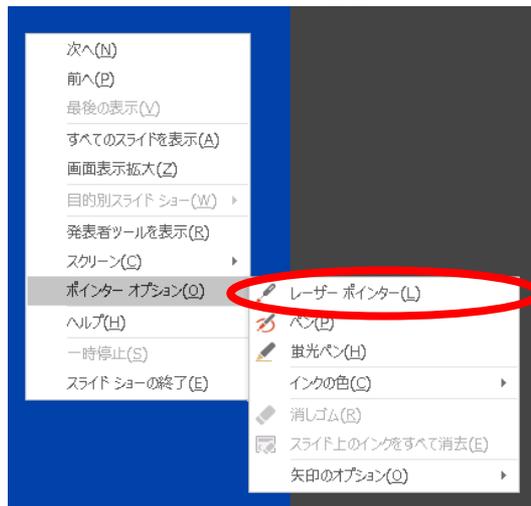
## ② Zoomの機能を利用



画面共有開始後に「コメントを付ける」



スポットライトからレーザーポインタを選ぶ



スライドショー (フルスクリーン) 開始後に右クリック



ポインターが受講者画面にも表示される

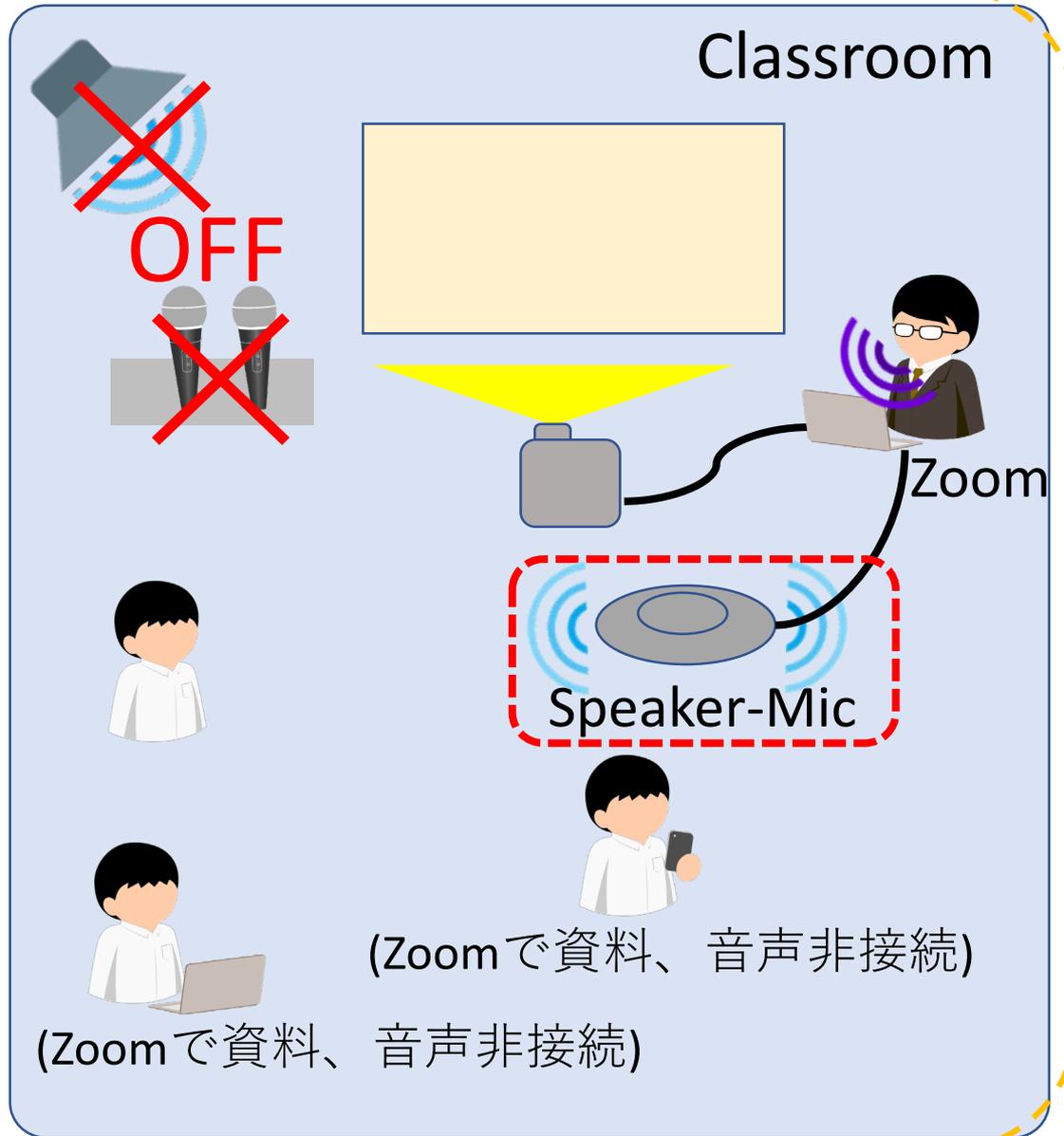
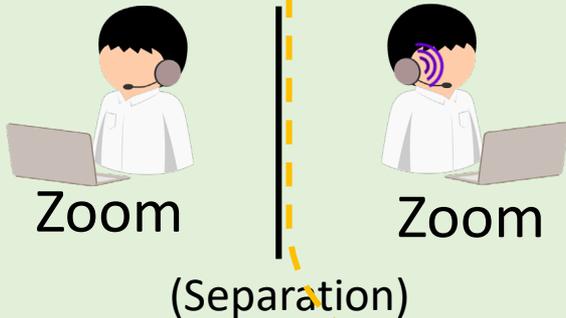
# スピーカマイク利用型 (+ 教室マイクなし)

少人数クラス向き  
講師・受講者間対話も可能 (限定的)

Remote  
(Home)



Remote  
(Self Learning Space)



スピーカマイクに声が届く範囲に着席

# 実施に向けた準備

## 「スピーカマイク利用型（+教室マイクなし）」

- スピーカマイク
  - マイクの收音範囲が比較的広いので、話す方向をあまり意識しなくても良い
  - 入手困難な状況が続いているので、早めの手配が必要
- 教室内受講者への指示（再掲）
  - 教室内ではZoomに音声接続させない
- 受講者からの質問対応
  - 受講者もスピーカマイクに向かって話す（講師による中継が不要）

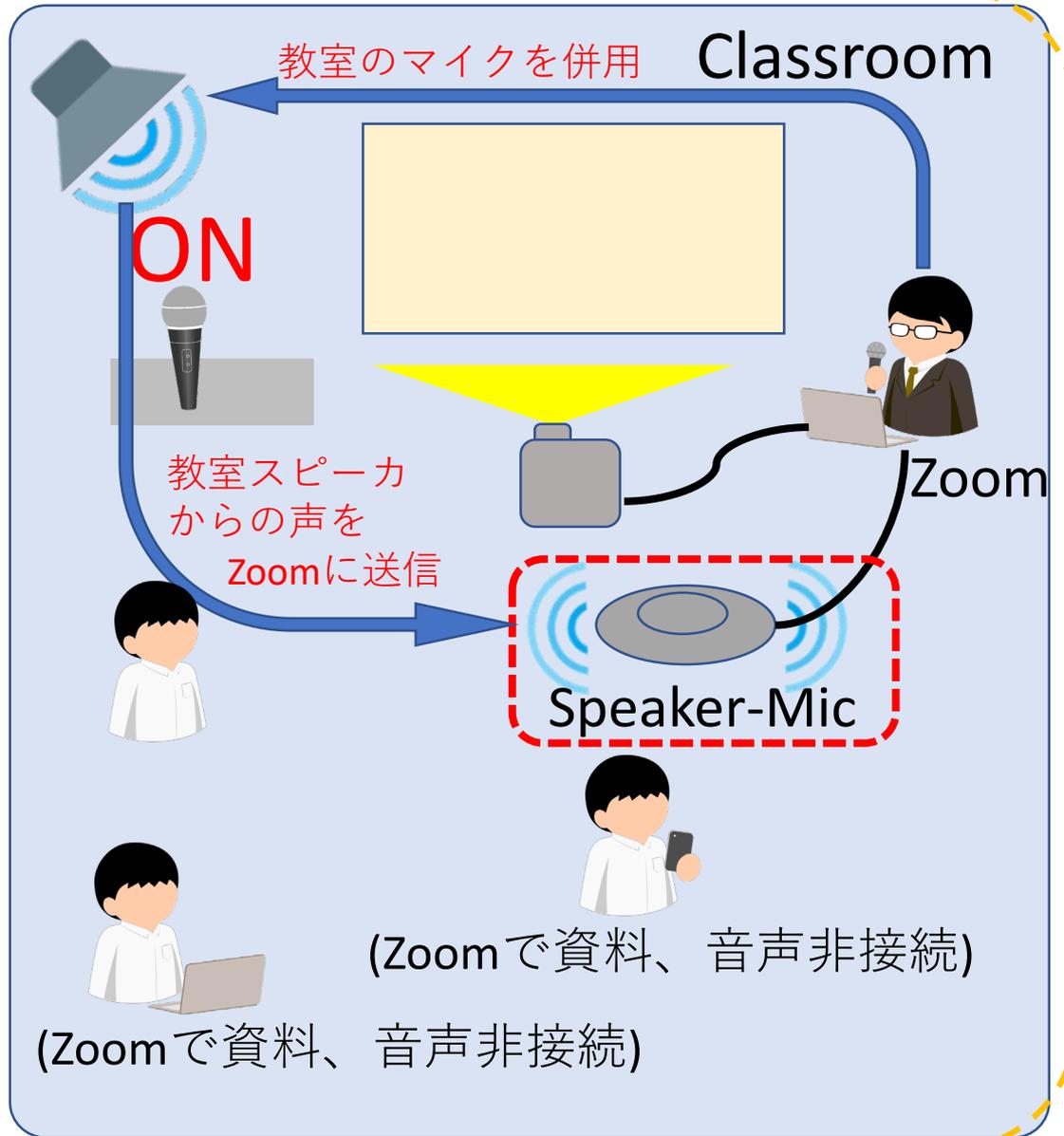
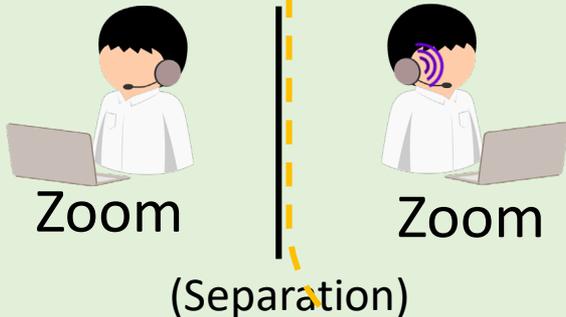
# スピーカマイク利用型 + 教室マイク併用

多人数クラス向き  
講師・受講者間対話も可能 (限定的)

Remote  
(Home)



Remote  
(Self Learning Space)



教室内の遠くの受講者の声を拾うのが困難

# 実施に向けた準備

## 「スピーカマイク利用型＋教室マイク併用」

- スピーカマイク
  - マイクの收音範囲が比較的広いので、話す方向をあまり意識しなくても良い
  - 教室スピーカの音をスピーカマイクで拾うので、置き場所に注意
    - 椅子などの上に置くと、クッションが音を吸収するので、遠隔側で声が聞き取りにくい
    - 壁の近くに置くと、反響音が大きくなり、遠隔側で声が聞き取りにくい
  - 入手困難な状況が続いているので、早めの手配が必要
- 教室内受講者への指示（再掲）
  - 教室内ではZoomに音声接続させない
- 受講者からの質問対応
  - 受講者もスピーカマイクに向かって話す（講師による中継が不要）

# 全員ヘッドセット利用型（講師が発言するとき）

完全オンライン型をそのまま利用  
各自の声が直接全員に届く

Remote  
(Home)



Zoom

Remote  
(Self Learning Space)

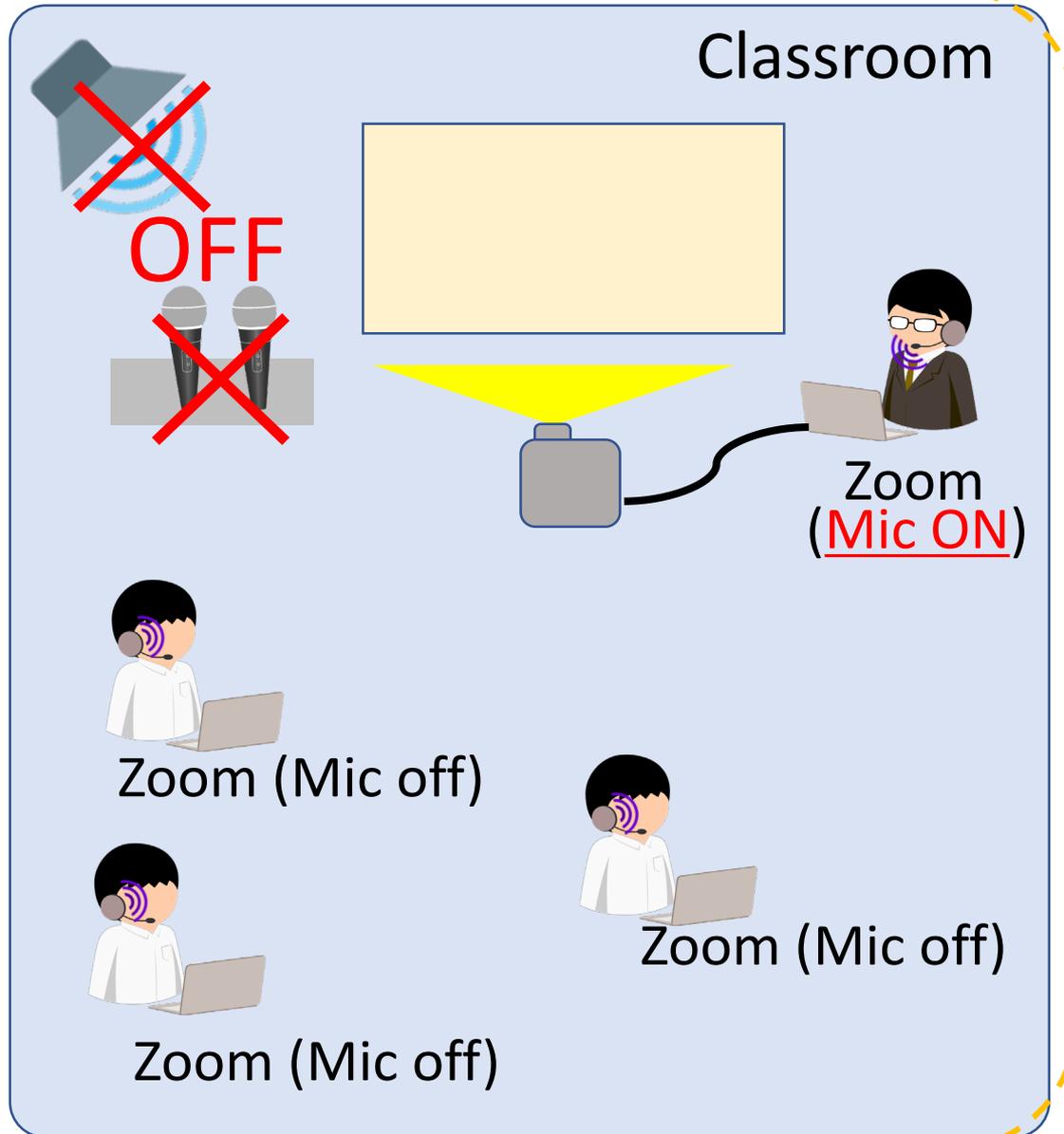


Zoom



Zoom

(Separation)



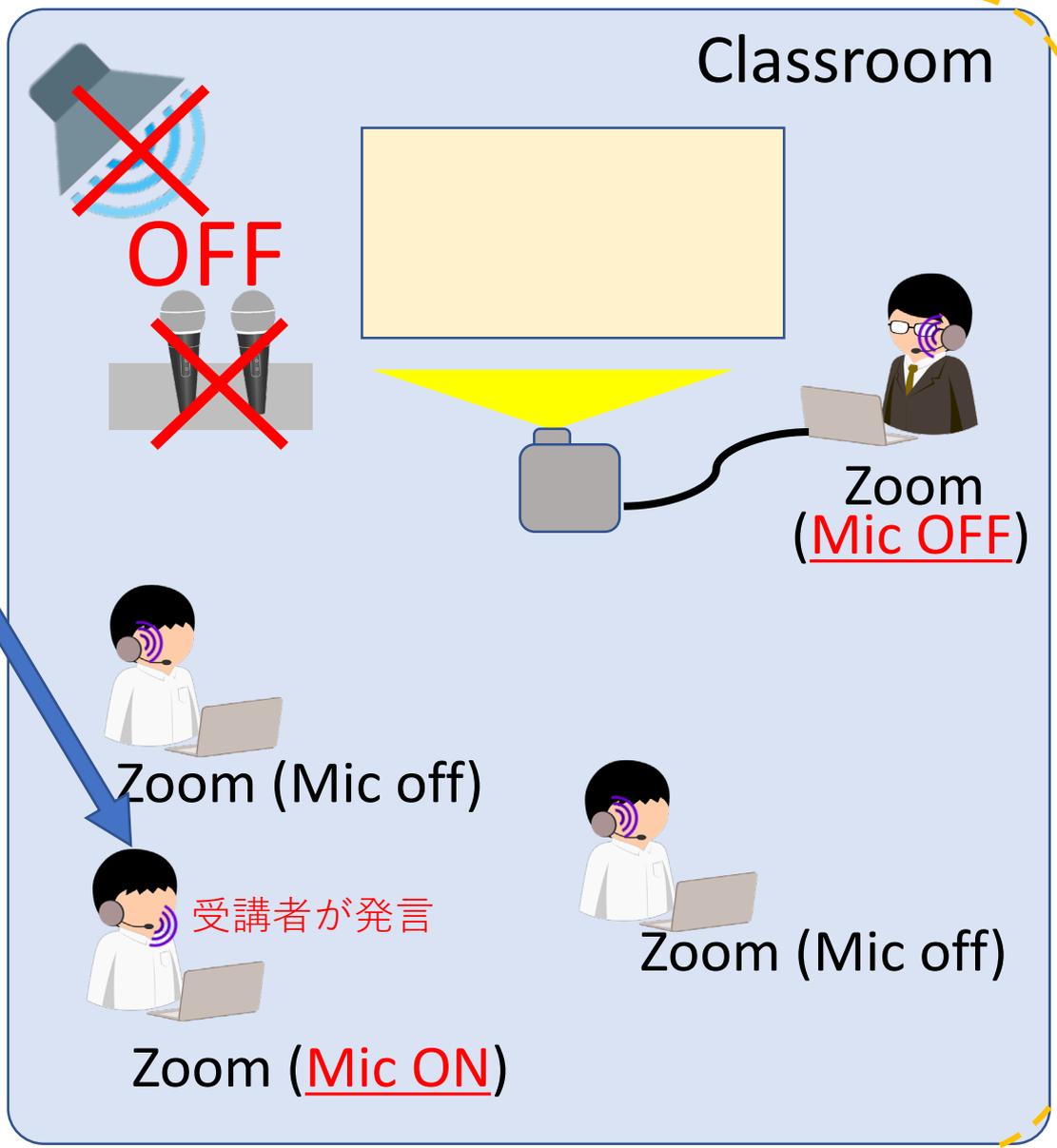
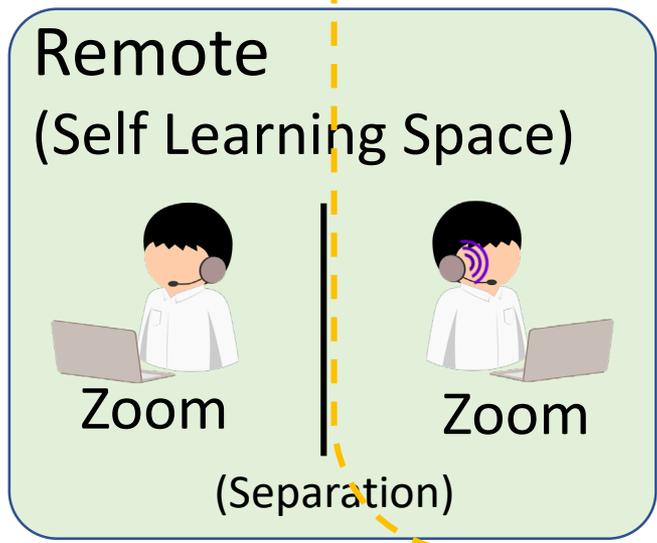
音漏れ禁止（端末ごとに音の遅延が異なるため）<sup>20</sup>

# 全員ヘッドセット利用型（受講者が発言するとき）

完全オンライン型をそのまま利用  
各自の声が直接全員に届く



Zoom経由で直接話せる



音漏れ禁止（室内での音のループ防止のため）

# 実施に向けた準備

## 「全員ヘッドセット利用型」

- ヘッドセット
  - 発言するときは、自分のマイクを利用する
  - 発言しないときは、必ずミュートする
  - 音のまわりこみによる「エコー」を防止するため、音漏れのない「密閉型」や「カナル型」を推奨
  - ただし、その場合は自分が発言する際の声の大きさが把握しにくいいため、声が大きすぎないように注意が必要
- 受講者が発言するとき
  - 講師はマイクをミュートする
  - 教室内では同時に発言しないこと
    - 同じ声を複数のマイクが拾うので、「エコー」が発生し、聞きづらくなる
      - 同時に発言する場合は、マイクの近くでできるだけ小さな声で
    - 「ブレイクアウトルーム」の利用は困難が予想される

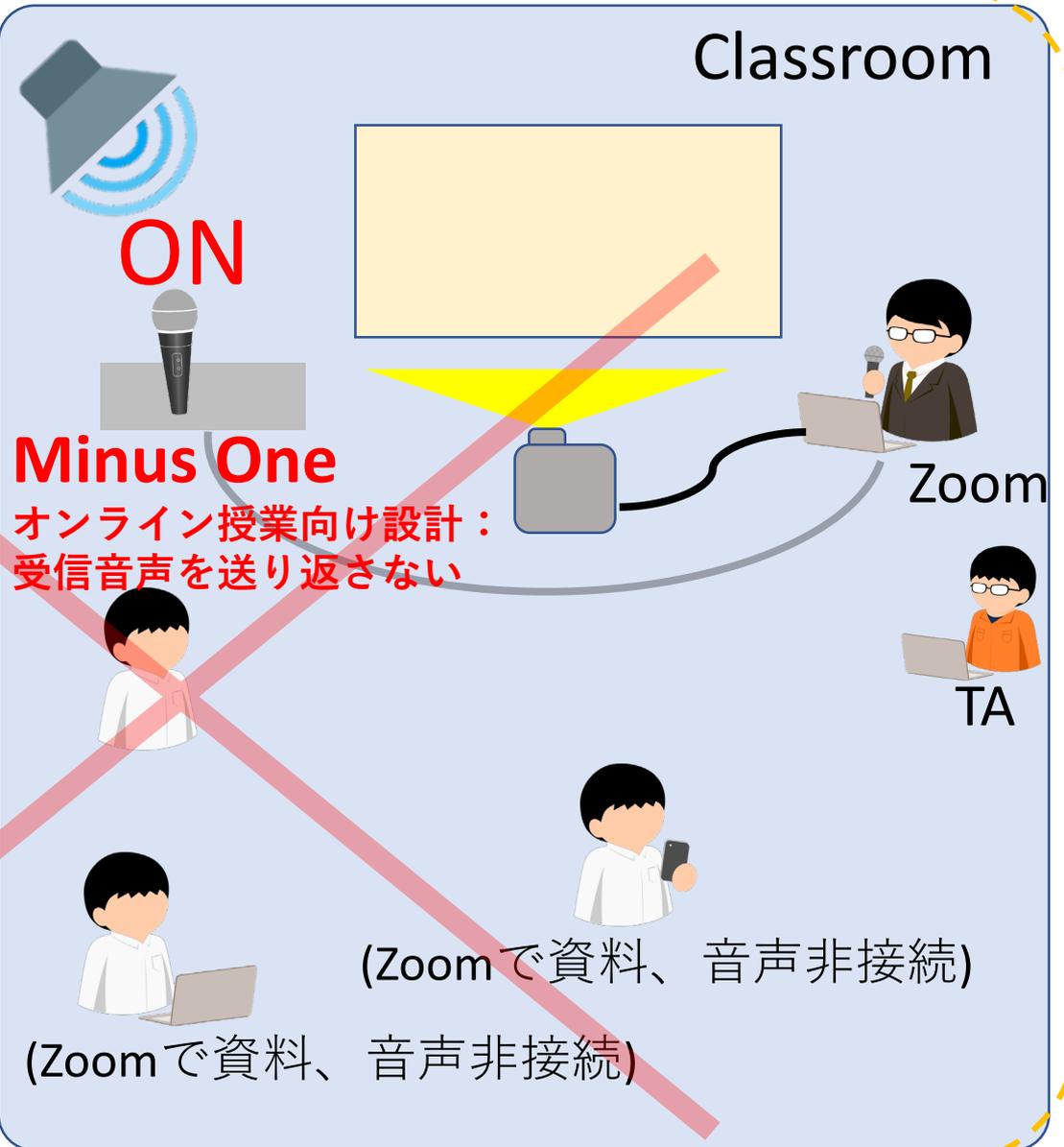
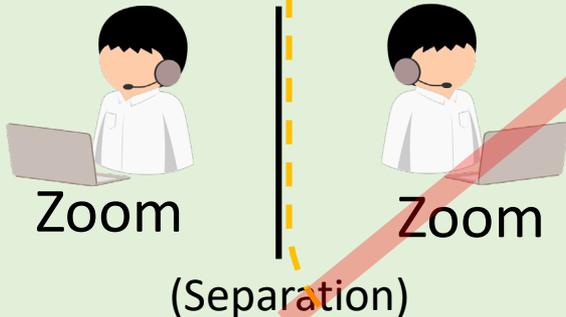
# 教室マイク直結利用型 (非推奨)

通常教室では、オンライン授業向けの音響設備設計（マイナスイオン）が一般的でない。技術的に可能であっても、授業直前の準備に時間がかかる。等の理由から、現実的ではない。

Remote  
(Home)



Remote  
(Self Learning Space)



リモート受講者の声が教室でよく聞こえるが、教室内の受講者の声を拾うのが困難

# アーカイブ（オンデマンド）の併用

- 時間割、収容人数、ネットワーク環境等の都合により、対面授業やオンライン（ライブ）による受講が難しい学生がいる可能性
  - 10月1日開講で履修登録とPandAの連携が間に合わないケースも想定される
- 授業のビデオを録画してオンデマンドで受講できるようにすることが強く望まれる
- Zoomのクラウドレコーディングの利用を推奨
  - 録画領域の容量が拡大されています

# (参考)

## クラウドレコーディング利用上の注意

- ミーティングルーム終了後しばらくするとアクセス可能になる
  - アクセス可能になったらメールで通知がくる
- 最初と最後の不要な部分はクラウド上でトリミング可能
  - クラウド上でそのまま視聴する場合にのみ有効
  - ダウンロードしたものはトリミングされていないことに注意
- 設定内容を事前によく確認しておく必要がある  
(合成映像はレコーディング後に不要なものを外せない)
  - 共有画面と一緒にどの映像を含めるか (発言者の映像、参加者の映像)
  - 参加者ごとの録音
  - チャット記録の有無、など
- 生成されるファイルのサイズは送信されたビデオの帯域に依存 (変動)
- 容量制限に達すると、次回からレコーディングが開始できない
  - 開始済みのレコーディングが途中で途切れることはない



# レコーディング容量について

- Zoomクラウド録画容量の増強
  - 10月から**1科目あたり3GB**まで(前期まで1.5GB)
  - **カメラON型授業**でも**1ヶ月分(4~5回)**は保存可能
- 古い録画は消して容量を使いまわして下さい
  - Zoomの個人設定にある日数指定の「クラウド録画を自動的に削除」が便利
  - **クラウド録画は映像をダウンロード可能**  
→保存した映像をPandAのKalturaにアップして  
長期的な閲覧に利用可能
    - Kalturaは、年度内の全ての授業録画映像をアップロードできる容量があります

# PandAでZoomクラウド録画 →Kaltura メディアギャラリー

zoom  
Your current Time Zone is (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo. [All My Zoom Meetings/Recordings](#) [Schedule a New Meeting](#)

Upcoming Meetings Previous Meetings Personal Meeting Room **Cloud Recordings** Get Training

From  Select date To  09/04/2020 Search By  ID

Show my course recordings only

<input type="checkbox"/>	Topic	ID	Start Time	File Size	Publish
<input type="checkbox"/>	クラウド録画テスト	990 5417 2514	Jul 22,2020 19:00	<b>3 Files (16 MB)</b>	<input type="checkbox"/> Delete
<input type="checkbox"/>	接続テスト Host Motonori Nakamura	948 125 086	Apr 21,2020 14:47	2 Files (5 MB)	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	接続テスト Host Motonori Nakamura	948 125 086	Apr 21,2020 10:59	2 Files (5 MB)	<input type="checkbox"/>

PandA  
マイワークスペース  liyama Laboratory 次のロールでサイトを表示:  ログアウト | Log out  
Kaltura Support  New Student Orientation   
ZOOM講習会  他のサイト

ホーム  お知らせ  サイト情報  統計情報  Zoom (KU License)  スケジュール  **メディアギャラリー**  ヘルプ

ZOOM講習会: メディアギャラリー

Upload Media

All common video, audio and image formats in all resolutions are accepted.

Back

PandAのZoomツール上で、  
Cloud Recordingsタブで  
各録画の X Files(YY MB)をクリック

1. コースサイトを選択して  
「サイト情報」→「ツールを編集」で  
「メディアギャラリー」を選択して追加
2. Add Media→Add New→Media Upload

マニュアル

<https://u.kyoto-u.jp/panda-kaltura>

# 自習スペース利用時の注意

## (学生向け注意事項)

- 音漏れのしない（密閉型、カナル型）イヤホンマイクを準備
  - マイクの感度も事前に確認しておくこと
- 発言しないときは必ずミュート
  - 発言時は周囲の人の迷惑にならないように配慮すること
  - 声が大きくなるようにマイクの近くで
    - イヤホンをしていると自分の声の大きさがわかりにくいことに注意
  - 音漏れしないが、自分の声や周囲の音が聞こえるもの（モニター機能）があると便利
    - Voicemeterなどのバーチャルミキサーを利用する方法もある（上級者向け）

### Remote

### (Self Learning Space)



Zoom



Zoom

(Separation)

- 無線の混雑に配慮する
  - イヤホンのBluetoothはできるだけ避ける
    - 音が途切れて聞きづらくなることも
    - 利用する場合は、充電切れに注意
  - 携帯など利用しない端末のWi-FiはOFFにする（テザリング設定もOFFに！）

# 参考資料（上級編）

1. 2教室を接続したオンライン授業
2. 複数のスピーカマイクの利用

# 従来の遠隔授業設備を併用する場合 (2教室を接続した利用)

- 機構整備の「高精細遠隔講義システム」利用が前提
  - H.323標準規格「ビデオ会議システム」を利用する設備
    - Zoomにも接続可能（「H.323/SIPコネクタ」オプションも契約済み）
  - 学内21カ所（吉田キャンパス11カ所）に整備
  - TA等による実施補助が必要

	+ 遠隔講義設備併用	+ 遠隔講義設備直接接続
ヘッドセット利用型	主として講師が話す	
スピーカマイク利用型	受講者間対話（一部）	
教室マイク利用型		主として講師が話す

- ほぼ従来通りの準備

- 設備をZoomに直接接続
- 準備に手間がかかる
- 音声がよりクリア
- 音声トラブルが少ない？
- 1教室利用も可

# ヘッドセット利用型 + 遠隔講義設備併用

ヘッドセット利用型 + 教室マイク併用を  
遠隔教室設備で2教室に拡張

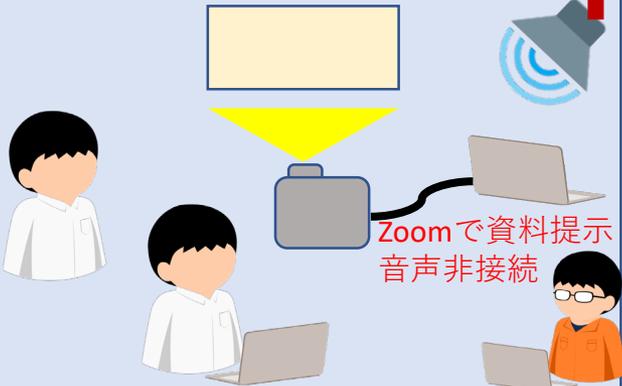
Remote  
(Home)



Zoom

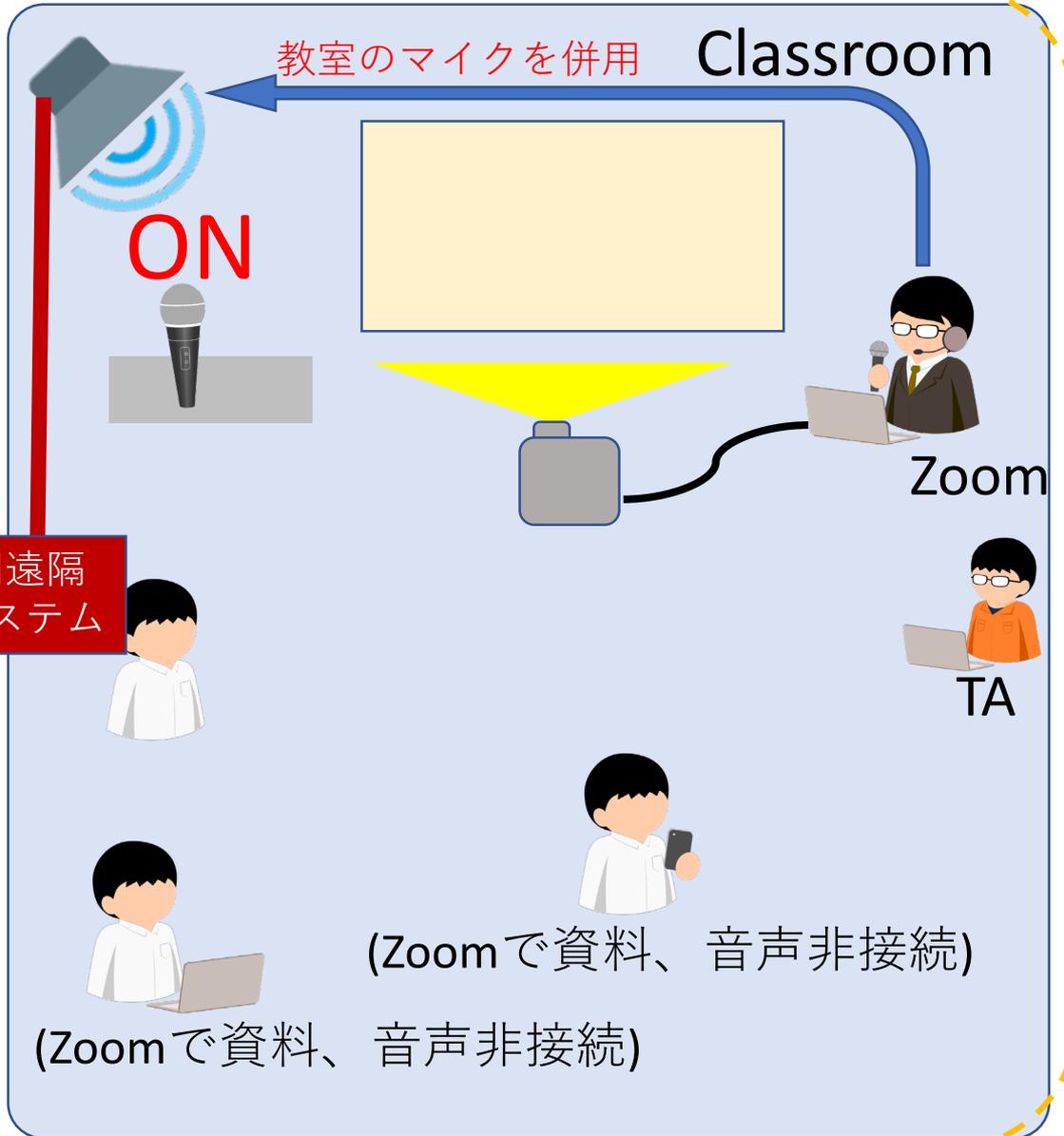
高精細遠隔  
講義システム

Remote (2nd Room)



Zoomで資料提示  
音声非接続

(Zoomで資料、音声非接続) TA

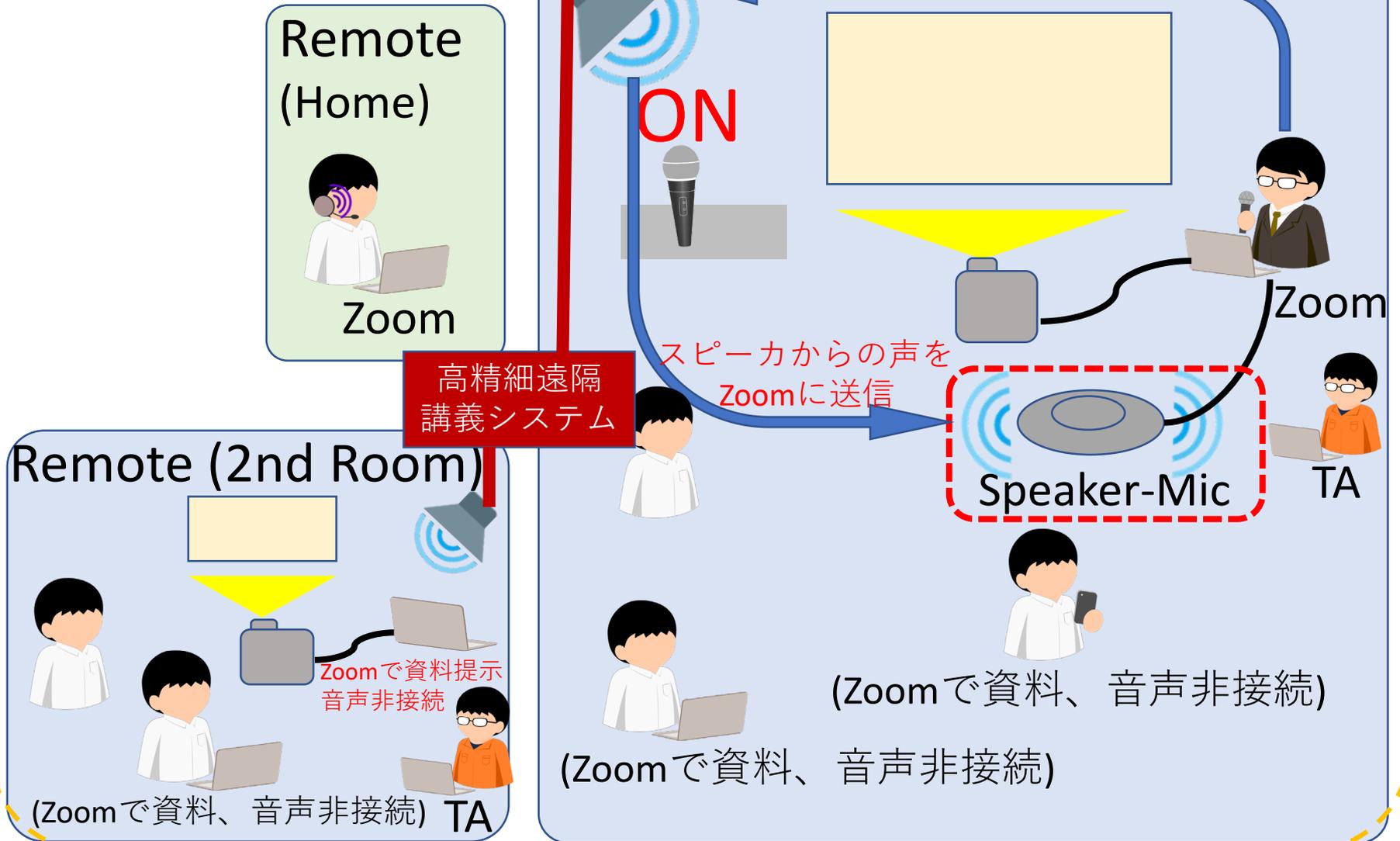


第2教室の受講者の声を拾うのが困難

教室内の遠くの受講者の声を拾うのが困難

# スピーカマイク利用型 + 遠隔講義設備併用

スピーカマイク利用型 + 教室マイク併用を  
遠隔教室設備で2教室に拡張



第2教室の受講者の声を拾うのが困難

教室内の遠くの受講者の声を拾うのが困難

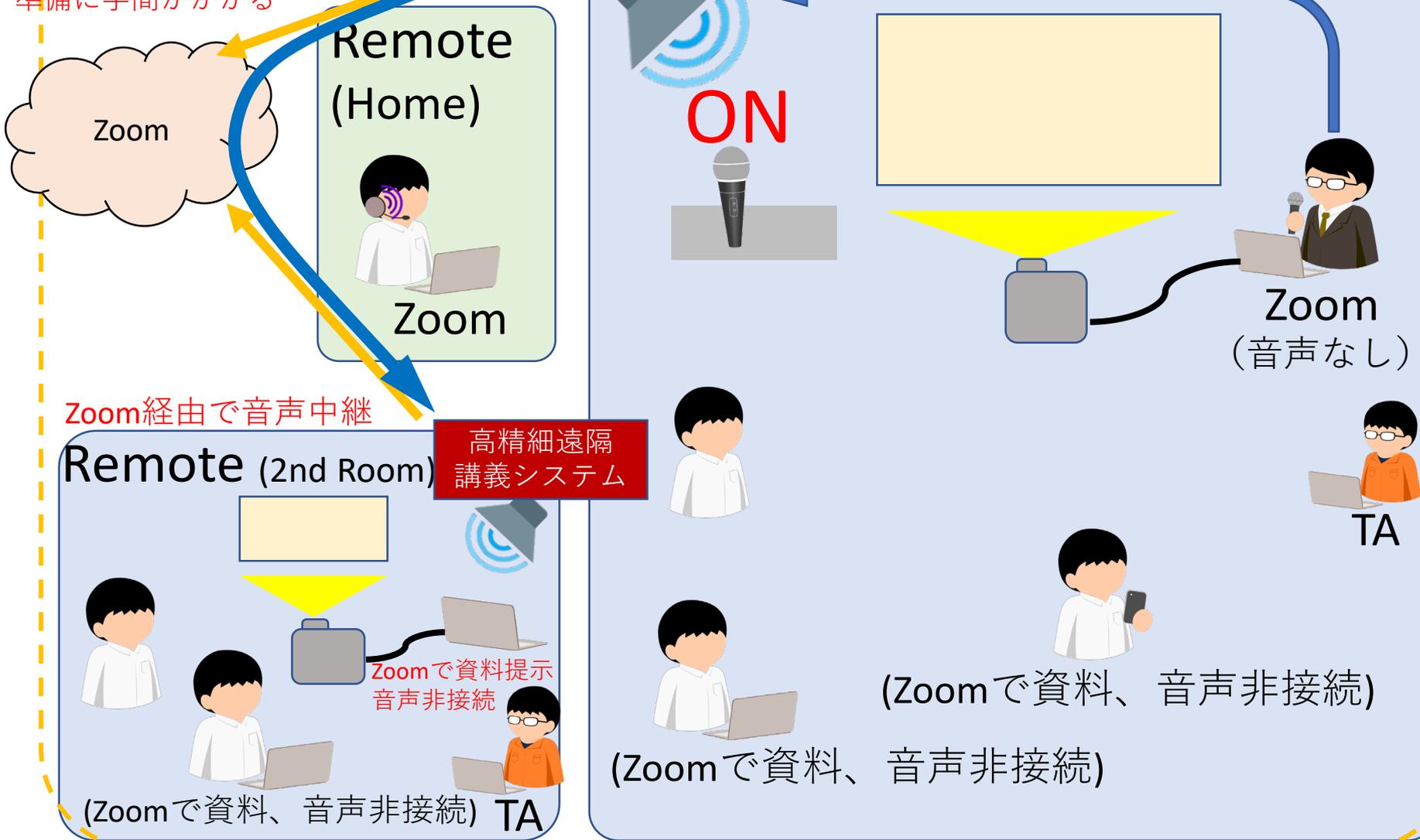
# 教室マイク利用型 (遠隔講義設備直接接続)

遠隔講義システムから直接Zoomに接続  
想定外の利用方法なので  
準備に手間がかかる

高精細遠隔  
講義システム

教室のマイクを利用

Classroom



Zoom経由で音声継

Remote (2nd Room)

高精細遠隔  
講義システム

(Zoomで資料、音声非接続)

(Zoomで資料、音声非接続)

(Zoomで資料、音声非接続) TA

第2教室の受講者の声を拾うのが困難

教室内の遠くの受講者の声を拾うのが困難

# (高度な利用方法)

## 複数のスピーカマイクの利用方法

- 複数のスピーカマイクの利用では、増設に対応している機器を利用することが原則  
(パソコンに接続できるのは1台のみ)

### 対応機器の例：

- Yamaha YVC-1000 (マイクを合計5台まで接続可能)
- Yamaha YVC-330 (2台をアナログケーブルでカスケード可能)
- Jabra Speak 710 (2台をBluetoothでカスケード可能)
- NTTテクノクロス R-Talk (マイクを合計2～4台まで接続可能)
- **ただし、PC上で動作するソフトウェア (バーチャル) ミキサを利用すれば、その他の機器でも複数利用可能**
  - Bluetooth接続は、遅延の差が大きくトラブルの原因となるため、推奨しない

# バーチャルミキサ Voicemeter Bananaで複数のスピーカマイクを利用する方法

- Voicemeter Bananaは3台まで併用可能
  - <https://www.vb-audio.com/Voicemeeter/banana.htm>
- 次の2種類のスピーカマイクを組み合わせ例
  - YAMAHA YVC-300
  - YAMAHA PJP-20UR
- Zoomのオーディオ設定でスピーカ、マイクにVoicemeter Bananaを指定
  - 設定完了後に、スピーカとマイクの動作確認をする



# Voicemeter Bananaの設定

- 音声入力の設定

- 入力機器にスピーカマイクを指定
- 各入力からの送り先をB1にする

- 音声出力の設定

- A1~A3でスピーカマイクを指定
- Virtual Inputsからの送り先をA1~A3にする



入力バランス調整

全体入力音量調整



全体出力音量調整

出力バランス調整